

「田んぼの学校」実施報告書

2011年度

野川で遊ぶまちづくりの会

目次

1. 企画書
2. 実施計画・報告書
3. 会計報告
4. おたより
5. 参加者名簿
6. 参加者感想文集
7. 総括報告
8. 付録

1. 企画書

「田んぼの学校」

企画名：いのちの湧き水をみつめよう！！

野川で遊ぶまちづくりの会

都会の谷戸と湧き水の小川

東京の区部に隣接する調布市には多摩川の支流である野川が流れています。野川は府中崖線の湧き水を集めて流れる都会では貴重な清流です。その野川に府中崖線の谷戸から湧き出る水を源流とする小川（一部コンクリートによる用水路）があり、昔から、谷戸から野川までの川沿いに田んぼがありました。今でも田んぼを続ける農家があり、谷戸には雑木林があり、ホタルも飛ぶ都会では信じられないような環境が残っています。しかしながら、田んぼも減りつつあり、雑木林も手入れがされず、このままでは、この貴重な環境がなくなってしまう。

田んぼで遊び、学ぼう

私たちの会では、会の名前にあるとおり、野川で遊びながら、野川を子供達が遊べる（泳げる）川にするために、まちづくりの提言をしていこうという趣旨で活動（1991年2月発足、ホームページ：<http://nogawa-tanbo.sakura.ne.jp/>）しています。

野川の支流である小川（通称佐須用水）の清掃と生き物観察会をしているとき、会員の一人が田んぼをやらないかとおつづやいた一言がこの地で田んぼをやるきっかけになりました。何事も実践（遊ぶこと）からという私たちの活動にはぴったりの課題でした。野川のいのちはこの湧き水です。この湧き水がまた多くのいのちを育てているということを、体感できる田んぼはまさしく「田んぼの学校」でした。幸い、近くの農家に友人がおり、援農という形で、田んぼを始めることができました。それから20年、会員を中心に田んぼをやってきて、自分達だけでなんとかできるという自信がつくところまで来ました。これまでの積み重ねから、本企画の重要性は増しており、その必要性を再確認し、継続することにしました。本年も、この地域を保全するため、またよりよくするため、市民の方々に広く知っていただくために親子（子供は小中学生）参加者を公募し、広く市民に理解していただくことを目的に企画しました。具体的な内容は日程表をご参照下さい。

2. 実施計画・報告書

「野川で遊ぶまちづくりの会」
「田んぼの学校」2011年度日程表

時限	日付	曜日	開始時刻	終了時刻	作業・行事	課題	目的	備考
1	4月10日	日	13時	15時	◎「田んぼの学校」開校式◎ 説明会		当会の活動を理解してもらおう。また、今後の心構えなどを話し合う。	
2	4月17日	日			種籾準備(水に浸ける)	種って何？どうして芽が出るの？	種の働きを理解する。	
3	4月23日	土	10時	15時	◎苗床作り		苗を育てる場所で、苗の生長に大きな影響がある。苗が順調に生長するための準備を十分に作る。種蒔きの2週間前に苗床を作るのは、雑草を取り除くためである。	
4	4月24日	日	10時	12時	◎種まき	種籾の不思議にせまる	苗半作という言葉があり、昔から苗作りが大切であることをあらわしていた。	
5	4月24日	日	13時	15時	◎用水路清掃 ◎生き物観察	用水路には何がいます？	地域と用水路(佐須用水)の関わりを考える。なぜ、用水路にゴミを捨てるのか。	
6	5月15日	日	10時	12時	◎堆肥入れ ◎荒起こし ◎畦草刈り ◎くろつけ準備	堆肥の養分は何？ 田んぼの荒起こしをしているとなぜか鳥がやってくる？	雑木林から落ち葉を集め、鶏糞や糠、藁などで堆肥を作る有機農法は昔から普通に農家で行われたことを理解する。化学肥料との違いは何かを考える。	
7	6月5日	日	10時	12時	くろつけ	くろつけは何のため？	くろつけは水漏れを防ぐ知恵である。今ではコンクリートなどで整備された田んぼがあるが、なにもなければ知恵が働くと言うことを学ぶ。	
8	6月10日	金	18時	20時	ホテル鑑賞会	ホテルはどこに棲む？	ホテルの生育できる環境を理解する。	
9	6月11日	土	10時	15時	◎苗取り ◎しろかき	しろかきは何のため？	くろつけが入れ物の縁とすると、しろかきは入れ物の底からの水漏れを防ぐ知恵である。昔から田んぼにしてきたところは底が粘土状になっている。	
10	6月12日	日	10時	13時	田植え	丈夫に育て！	米作りで田植えは昔から村総出で行う大きなイベントであった。昔も今も神様に祈る気持ちは同じである。人ができる主なことはここで終わると言うこともある。	
11	7月10日	日	10時	12時	◎一番草(草取り、根掻き) ◎畦草刈り ◎田んぼの生き物観察	田んぼに何がいます？	オタマジャクシ、ミジンコなど生き物でいっぱいになる田んぼでなにが起こっているか考える。	
12	8月18日	木	9時	12時	夏祭り準備			
12	8月19日	金	15時	21時	柏野夏祭り参加(焼き鳥)		地域の祭りに参加し、交流を図る。	
12	8月20日	土	15時	21時	柏野夏祭り参加(焼き鳥)		地域の祭りに参加し、交流を図る。	
12	8月21日	日	9時	12時	夏祭り片付け			
13	9月4日	日	10時	11時	田んぼ生き物観察	田んぼに何がいます？		
14	9月4日	日	10時	13時	カカシ作り	カカシって何してるの？	稲の穂に付いた籾をねらって鳥が来る。人も鳥も生きていることを考える。	
15	9月25日	日	9時	16時	親子炭焼きディキャンプ		炭焼きの実践を体験し、雑木林の役割を考える。	
15	10月8日	土	10時	12時	◎ハザ掛け準備 ◎稲刈り			

「野川で遊ぶまちづくりの会」
「田んぼの学校」2011年度日程表

時限	日付	曜日	開始時刻	終了時刻	作業・行事	課題	目的	備考
16	10月9日	日	10時	12時	◎稲刈り ◎レンゲ種まき	刈った稲を干すのはなぜ？	稲を干すのはなぜなのか考える。	
17	10月23日	日	10時	12時	脱穀			
18	11月6日	日	10時	16時	粃摺り			
19	11月13日	日	10時	14時	精米	玄米、胚芽米、精米の違いは何？	一粒の米に託されたものを考える。	
20	11月23日	水	10時	15時	収穫祭(餅つき、豚汁)	お米を作ったのは誰？	お米作りを通して、人と自然の役割を考える。	
21	12月11日	日	10時	12時	落ち葉拾い(堆肥作り)	雑木林って何？	雑木林の役割を考える。	
22	12月11日	日	13時	16時	しめ縄作り	稲藁の活用	無駄のない稲作	
23	1月14日	土	9時	11時	堆肥切り返し		堆肥発酵促進	
24	1月14日	土	11時	13時	佐須地区どんど焼き	どんど焼きってなに？	地域に根づいている行事に関心を持ち、生活との関わりを学ぶ。	
25	2月5日	日	10時	12時	堆肥切り返し		堆肥発酵促進	
26	2月5日	火	13時	15時	縄織い、草鞋づくり	昔の人は稲藁でさまざまな生活に必要なものを作ってきました。そのひとつが縄です。今年から草鞋作りも行い	稲藁を使って縄を織うことを通して先人の知恵を学ぶ。	
27	3月11日	日	10時	12時	堆肥切り返し		堆肥発酵促進	

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	4月10日	日	開始時刻	13時	終了時刻	15時
実施日	4月10日	日	開始時刻	13時	終了時刻	15時
作業:	◎「田んぼの学校」開校式◎説明会					
課題:						
目的:	当会の活動を理解してもらう。また、今後の心構えなどを話し合う。					
内容:	参加者顔合わせ(自己紹介)、年間予定説明、名簿作成、質疑応答。					
要領:	●開会の挨拶●説明会(当会の概要、年間日程、援農)●質疑応答●参加確認(多数の場合、抽選)●参加費徴収●種粃配布●閉会の挨拶					
準備:	●佐須児童館集会室を借りる。●資料(野川散歩地図、会報)					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名: 尾辻 義和、尾辻 隆子					
	参加者名: 石森,今江,内田,大野,田原,寺内,富樫,中野,西山,沼田,林,藤井,松原,鬼弦					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容:					
	参加者顔合わせ(自己紹介)、年間予定説明、名簿作成、質疑応答。					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
留意事項:						
----- ----- ----- -----						
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	4月17日	日	開始時刻		終了時刻	
実施日	4月17日	日	開始時刻		終了時刻	
作業:	種粃準備(水に浸ける)					
課題:	種って何? どうして芽が出るの?					
目的:	種の働きを理解する。					
内容:	種粃を選別し、発芽させる。					
要領:	●最初に薄い食塩水(新鮮な卵が浮く程度)に種粃をつけて、浮いた種粃を選り分ける(苗床の余ったところで蒔いてみるのもいい)。●一度洗って、きれいな水に浸ける。酸素を必要とするので1日に一回は水を取りかえる。●発芽したら、冷蔵保存(5から10℃)する。●種蒔の前日に発芽していない場合、風呂の残り湯(30℃以下)につけ					
準備:	●参加者に一握りずつ分けるもち米の種粃を用意する●					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名: 尾辻 義和					
	参加者名: 石森, 今江, 内田, 大野, 田原, 寺内, 富樫, 中野, 西山, 沼田, 林, 藤井, 牧島, 松原, 鬼弦					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容:					
	百宅で種粃を選別し、発芽させる。 ----- ----- ----- ----- ----- -----					
備考:	留意事項:					
	----- ----- -----					

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	4月23日	土	開始時刻	10時	終了時刻	15時
実施日	4月24日	日	開始時刻	13時	終了時刻	15時
作業:	◎苗床作り					
課題:						
目的:	苗を育てる場所で、苗の生長に大きな影響がある。苗が順調に生長するための準備を十分に作る。種蒔きの2週間前に苗床を作るのは、雑草を取り除くためである。					
内容:	●苗を育てるための苗床を作る。					
要領:	●田んぼの南側に幅1.2m、長さ12mくらいの広さの短冊畝つくる。土の塊は種籾より小さくなるように、大きなものを手ですりつぶす。●高さは他と同じにする。高くすると、乾燥しやすくなるため。●畝の両脇は7cmくらいの深さで水路を作り水を入れる。					
準備:	●農協で100mのネットを購入する。●湿った土では土が固まりやすいので、乾燥した時でないと苗床作りはできない。天候によっては日程を変更する。●ただし、代掻きした苗床に種を蒔く方法もある。(直播きに近い)					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名: 尾辻 義和、尾辻 隆子					
	参加者名: 石森,今江,内田,大野,田原,寺内,富樫,中野,西山,沼田,林,藤井,牧島,松原,鬼弦					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容: 苗を育てるための苗床を作る。					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
留意事項:	----- ----- -----					
	----- ----- -----					
	----- ----- -----					
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	4月24日	日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	5月1日	日	開始時刻		終了時刻	
作業:	◎種まき					
課題:	種籾の不思議にせまる					
目的:	苗半作という言葉があり、昔から苗作りが大切であることをあらわしていた。					
内容:	●種籾を蒔く。					
要領:	●もち米と粳米の種籾を4, 6の割合で、区別(もち米に粳米が混ざるともちにならない)して蒔く。●種籾は重ならない程度に密に蒔く。●薄く(5mmほど)土をかける。●かまぼこ状にネットをかける。					
準備:						
用具:	ネット、ネットフレーム(20本)、ふるい					
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名: 尾辻 義和、尾辻 隆子					
	参加者名: 石森,今江,内田,大野,田原,寺内,富樫,中野,西山,沼田,林,藤井,牧島,松原,鬼弦					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容: 種籾を蒔く。					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
備考:	留意事項: ----- ----- -----					

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	4月24日	日	開始時刻	13時	終了時刻	15時
実施日	4月29日	金	開始時刻	10	終了時刻	12
作業:	◎用水路清掃 ◎生き物観察					
課題:	用水路には何がいます？					
目的:	地域と用水路(佐須用水)の関わりを考える。なぜ、用水路にゴミを捨てるのか。					
内容:	●佐須街道から野川までの佐須用水(本流)のゴミ拾いをする●同じところで、水棲動物を捕獲して観察会を行う。					
要領:	●用水路に入り、ゴミ拾いをする。●ゴミは分別する。●空缶の中にはザリガニがいるので、捕獲する。●ゴミはリヤカーで集め、児童館裏に置かせてもらう。					
準備:	●クリーンセンター、佐須児童館に連絡をする。					
用具:	●ゴミ袋、リヤカー、軍手●水槽、水棲動物用捕獲網					
服装・装備:						
担当者:	講師:平井氏(043-383-3468、03-3666-3327)					
実施記録:	指導担当者名:尾辻 義和、尾辻 隆子					
	参加者名:石森,今江,内田,大野,田原,寺内,富樫,中野,西山,沼田,林,藤井,牧島,松原,鬼弦					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容: 佐須街道から野川までの佐須用水(本流)のゴミ拾いをする 同じところで、水棲動物を捕獲して観察会を行う。					
	留意事項: ----- ----- ----- ----- -----					
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	5月15日	日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	5月15日	日	開始時刻		終了時刻	
作業:	◎堆肥入れ ◎荒起こし					
課題:	堆肥の養分は何？ 田んぼの荒起こしをしているとなぜか鳥がやってくる？					
目的:	雑木林から落ち葉を集め、鶏糞や糠、藁などで堆肥を作る有機農法は昔から普通に農家で行われたことを理解する。化学肥料との違いは何かを考える。					
内容:	●堆肥を田んぼに均等に撒く●撒いた堆肥を耕運機で漉き込む●畦の草刈りをする。●刈った草は田んぼに撒く。●畦の際に水路を作り、水を引く。					
要領:	●水路に堰を作り、田んぼに水を引き入れる●畦の際に水路を作る●畦に泥を塗り付ける分を畦から削る					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名: 尾辻 義和、尾辻 隆子					
	参加者名: 石森,今江,内田,大野,田原,寺内,富樫,中野,西山,林,藤井,牧島,松原,鬼弦					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容: 堆肥を田んぼに均等に撒く 撒いた堆肥を耕運機で漉き込む 畦の草刈りをする。 刈った草は田んぼに撒く。 畦の際に水路を作り、水を引く。					
備考:	留意事項:					

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	6月5日	日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	6月5日	日	開始時刻		終了時刻	
作業:	くろつけ					
課題:	くろつけは何のため？					
目的:	くろつけは水漏れを防ぐ知恵である。今ではコンクリートなどで整備された田んぼがあるが、なにもなければ知恵が働くということを学ぶ。					
内容:	●畦に泥を塗りつける。●					
要領:	●取水口から一番遠いところからくろつけをする●水加減をしながら泥をこねて、畦の上部と壁面に5cmくらいの厚さで泥を塗る●くろつけが終わったら畦際の水路に水を引き入れ、くろが乾かないようにする					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名：尾辻 義和、尾辻 隆子					
	参加者名：石森、今江、内田、大野、田原、寺内、富樫、中野、西山、沼田、林、藤井、牧島、松原、鬼弦					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容：					
	畦に泥を塗りつける。					

留意事項：						

備考：						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	6月10日	金	開始時刻	18時	終了時刻	20時
実施日			開始時刻		終了時刻	
作業:	ホタル鑑賞会					
課題:	ホタルはどこに棲む？					
目的:	ホタルの生育できる環境を理解する。					
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名: 尾辻 義和、尾辻 隆子					
	参加者名: 石森,今江,内田,大野,田原,寺内,富樫,中野,西山,沼田,林,藤井,牧島,松原,鬼弦					
	開始時刻	10時			終了時刻	12時
	実施内容: 中止					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
備考:	留意事項:					
	----- ----- ----- -----					

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	6月11日	土	開始時刻	10時	終了時刻	15時
実施日	6月12日	日	開始時刻		終了時刻	
作業:	◎苗取り ◎しろかき					
課題:	しろかきは何のため?					
目的:	くろつけが入れ物の縁とすると、しろかきは入れ物の底からの水漏れを防ぐ知恵である。昔から田んぼにしてきたところは底が粘土状になっている。					
内容:	●苗代から苗を取り、わらで適当な量を束ねる。●取った苗は水に浸けておく。●田んぼに水を十分に入れ、耕運機で代掻きをする。●表面を水平にならす。					
要領:	●結束用のわらは、あらかじめ水にぬらしておく●結わえた苗の束は籠に入れて水に浸けておく●もち米と粳米の苗を絶対に混ぜない。●代掻きが終わる頃、水を止めると高低がわかる					
準備:	●結束用のわら●籠を用意する					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名: 尾辻 義和、尾辻 隆子					
	参加者名: 石森,今江,内田,大野,田原,寺内,富樫,中野,西山,沼田,林,藤井,牧島,松原,鬼弦					
	開始時刻	10時			終了時刻	12時
	実施内容:					
	苗代から苗を取り、わらで適当な量を束ねる。 取った苗は水に浸けておく。 田んぼに水を十分に入れ、耕運機で代掻きをする。 表面を水平にならす。					
留意事項:						
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	6月12日	日	開始時刻	10時	終了時刻	13時
実施日	6月19日	日	開始時刻		終了時刻	
作業:	田植え					
課題:	丈夫に育て!					
目的:	米作りで田植えは昔から村総出で行う大きなイベントであった。昔も今も神様に祈る気持ちは同じである。人ができる主なことはここで終わると言うこともある。					
内容:	●田植えをする ●南側にもち米を田んぼの四割くらい植える					
要領:	●30cm間隔に印のついた縄(25m)を張り、印のついたところに植える。 ●縄は25cm間隔でずらしていく。 ●苗を植える人は、植え終わったら一步下がって自分の足跡をならす。 ●水は少な目に張る。					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名: 尾辻 義和、尾辻 隆子					
	参加者名: 石森,今江,内田,大野,田原,寺内,富樫,中野,西山,沼田,林,藤井,牧島,松原,鬼弦					
	開始時刻	13時			終了時刻	16時
	実施内容:					
	●田植えをする ●南側にもち米を田んぼの四割くらい植える					
留意事項:						
備考:						

プログラムマニュアル					
プログラム名称:					
実施予定日	6月19日	日	開始時刻		終了時刻
実施日	6月26日	日	開始時刻		終了時刻
作業:	補植				
課題:					
目的:					
内容:					
要領:					
準備:					
用具:					
服装・装備:					
担当者:					
実施記録:	指導担当者名: 尾辻 義和、尾辻 隆子				
	参加者名:				
	開始時刻		終了時刻		
	実施内容:				
	補植				
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----				
留意事項:					
----- ----- ----- -----					
備考:					

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	7月10日	日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	7月10日	日	開始時刻		終了時刻	
作業:	◎一番草(草取り、根掻き) ◎畦草刈り					
課題:	田んぼに何がいます?					
目的:	オタマジャクシ、ミジンコなど生き物でいっぱいになる田んぼでなにが起こっているか考える。					
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:	講師: 平井氏(042-383-3468、03-3666-3327)					
実施記録:	指導担当者名: 尾辻 義和、尾辻 隆子					
	参加者名: 石森, 今江, 内田, 大野, 田原, 寺内, 富樫, 中野, 西山, 林, 藤井, 牧島, 松原, 鬼弦					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容: ◎一番草(草取り、根掻き) ◎畦草刈り ◎田んぼの生き物観察					
留意事項: ----- ----- ----- -----						
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:						
実施予定日	8月18日	木	開始時刻	9時	終了時刻	12時
実施日	8月18日	木	開始時刻		終了時刻	
作業:	夏祭り準備					
課題:						
目的:						
内容:	●テント張り●ちょうちん付け●やぐら紅白テープ巻き●掲示板設置●当会は焼き鳥の模擬店として参加する。					
要領:						
準備:	●備長炭15Kg2箱●ビニールパック、ビニール袋、輪ゴム、アルミホイール●食材(串焼き鳥1日3000本、焼き鳥用タレ)●保温用ダンボールケース					
用具:						
服装・装備:						
担当者:	柏野夏祭り準備					
実施記録:	指導担当者名: 尾辻 義和、尾辻 隆子					
	参加者名: 石森,今江,大野,田原,寺内,富樫,中野,林,藤井,松原,鬼弦					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容: 夏祭り準備 ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
留意事項: ----- ----- ----- -----						
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	8月19日	金	開始時刻	15時	終了時刻	21時
実施日	8月19日	金	開始時刻		終了時刻	
作業:	柏野夏祭り参加(焼き鳥)					
課題:						
目的:	地域の祭りに参加し、交流を図る。					
内容:	●2000本の焼き鳥(国産)を焼いて、1本100円で販売する。					
要領:	●焼き鳥は冷凍なので、開封して自然解凍する。●発泡ダンボールの箱で保存する。 ●タレは焼いた後1回だけ付ける●					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名: 尾辻 義和、尾辻 隆子					
	参加者名: 石森,今江,大野,田原,寺内,富樫,中野,林,藤井,牧島,松原,鬼弦					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:					
	柏野夏祭り参加(焼き鳥)					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
備考:	留意事項:					
	----- ----- -----					

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	8月20日	土	開始時刻	15時	終了時刻	21時
実施日	8月20日	土	開始時刻		終了時刻	
作業:	柏野夏祭り参加(焼き鳥)					
課題:						
目的:	地域の祭りに参加し、交流を図る。					
内容:	●2000本の焼き鳥(国産)を焼いて、1本100円で販売する。					
要領:	●焼き鳥は冷凍なので、開封して自然解凍する。●発泡ダンボールの箱で保存する。 ●タレは焼いた後1回だけ付ける●					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名: 尾辻 義和、尾辻 隆子					
	参加者名: 石森,今江,大野,田原,寺内,富樫,中野,林,藤井,松原,鬼弦					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:					
	柏野夏祭り参加(焼き鳥)					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
備考:	留意事項:					
	----- ----- ----- -----					

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:						
実施予定日	8月21日	日	開始時刻	9時	終了時刻	12時
実施日	8月21日	日	開始時刻		終了時刻	
作業:	夏祭り片付け					
課題:						
目的:						
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:	柏野夏祭り(片づけ)					
実施記録:	指導担当者名: 尾辻 義和、尾辻 隆子					
	参加者名: 石森,今江,大野,田原,寺内,富樫,中野,林,藤井,松原,鬼弦					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:					
	夏祭り片付け					

留意事項:						

備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	9月4日	日	開始時刻	10時	終了時刻	11時
実施日	9月18日	日	開始時刻		終了時刻	
作業:	田んぼ生き物観察					
課題:	田んぼに何がいる？					
目的:						
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名: 尾辻 義和、尾辻 隆子					
	参加者名: 石森, 今江, 内田, 大野, 田原, 寺内, 富樫, 中野, 西山, 沼田, 林, 藤井, 牧島, 松原, 鬼弦					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:					
	田んぼ生き物観察					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
備考:	留意事項:					
	----- ----- -----					
	----- ----- -----					

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	9月4日	日	開始時刻	10時	終了時刻	13時
実施日	9月18日	日	開始時刻		終了時刻	
作業:	カカシ作り					
課題:	カカシって何してるの？					
目的:	稲の穂に付いた糲をねらって鳥が来る。人も鳥も生きていることを考える。					
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名: 尾辻 義和、尾辻 隆子					
	参加者名: 石森,今江,大野,田原,寺内,富樫,中野,沼田,林,藤井,牧島,松原,鬼弦					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:					
	カカシ作り					

留意事項:	-----					

備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	9月25日	日	開始時刻	9時	終了時刻	16時
実施日	9月25日	日	開始時刻		終了時刻	
作業:	親子炭焼きディキャンプ					
課題:						
目的:	炭焼きの実践を体験し、雑木林の役割を考える。					
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名: 尾辻 義和、尾辻 隆子					
	参加者名: 石森,今江,内田,大野,田原,寺内,富樫,中野,西山,沼田,林,藤井,牧島,松原,鬼弦					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容: 親子炭焼きディキャンプ					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
備考:	留意事項: ----- ----- -----					

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	10月8日	土	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	10月8日	土	開始時刻		終了時刻	
作業:	◎ハザ掛け準備 ◎稲刈り					
課題:						
目的:						
内容:	●ハザ掛けをつくる(南北4列)●稲刈りはもち米から先にする●うるちと混ぜらないように注意する。					
要領:	●ハザ掛けの足場を先に刈る●足は垂木3本1組として三脚を作る●三脚3組で1列とし、4列作る●梁の竹は細ければ2本組にする					
準備:	●足になる垂木、3本1組、12組分●梁にする竹(10m)10本くらい●網掛け用竹棒(3m)15本くらい●鳥除け網40mくらい●荒縄(太)1巻●結束用稲わら					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名: 尾辻 義和、尾辻 隆子					
	参加者名: 石森,今江,内田,大野,寺内,富樫,中野,沼田,林,藤井,松原,鬼弦					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容: ハザ掛け準備 稲刈り ----- ----- ----- ----- ----- -----					
備考:	留意事項: ----- ----- -----					

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	10月9日	日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	10月9日	日	開始時刻		終了時刻	
作業:	◎稲刈り ◎レンゲ種まき					
課題:	刈った稲を干すのはなぜ？					
目的:	稲を干すのはなぜなのか考える。					
内容:	鳥除けの網を張る。					
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名: 尾辻 義和、尾辻 隆子					
	参加者名: 石森,今江,内田,大野,田原,寺内,富樫,中野,西山,沼田,林,藤井,牧島,松原,鬼弦					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容: ◎稲刈り					

留意事項:						

備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	10月23日	日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	10月30日	日	開始時刻		終了時刻	
作業:	脱穀					
課題:						
目的:						
内容:	●稲穂から種籾を取る●来年の種籾を確保する。					
要領:						
準備:	佐須地区の共同脱穀機(自走式)を借り、田んぼへ移動する。					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名: 尾辻 義和、尾辻 隆子					
	参加者名: 石森,今江,内田,大野,田原,寺内,富樫,中野,西山,林,藤井,牧島,松原,鬼弦					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:					
	脱穀					

留意事項:						

備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	11月6日	日	開始時刻	10時	終了時刻	16時
実施日	11月6日	日	開始時刻		終了時刻	
作業:	粃摺り					
課題:						
目的:						
内容:	●種粃から粃殻を取る					
要領:						
準備:	●粃摺り機 ●モーター ●みの ●米袋10枚					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名: 尾辻 義和、尾辻 隆子					
	参加者名: 石森, 今江, 内田, 大野, 田原, 寺内, 富樫, 中野, 西山, 林, 藤井, 牧島, 松原, 鬼弦					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:					
	粃摺り					

留意事項:						

備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	11月13日	日	開始時刻	10時	終了時刻	14時
実施日	11月13日	日	開始時刻		終了時刻	
作業:	精米					
課題:	玄米、胚芽米、精米の違いは何？					
目的:	一粒の米に託されたものを考える。					
内容:	●佐須地区共同小屋で精米する。●粳米は7分くらいにする。					
要領:	●					
準備:	●佐須地区の共同精米所にて行う。●カギは当番のところでは借りる。●精米費は30Kg200円？を会計担当に支払う。(領収書無しです。) ●カギと、会計の担当は竹内さんに確認する。●みの					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名：尾辻 義和、尾辻 隆子					
	参加者名：石森,今江,内田,大野,田原,寺内,富樫,中野,西山,沼田,林,藤井,牧島,松原,鬼弦					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:	精米				
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
留意事項:	----- ----- ----- -----					
	----- ----- ----- -----					
	----- ----- ----- -----					
	----- ----- ----- -----					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	11月23日	水	開始時刻	10時	終了時刻	15時
実施日	11月23日	水	開始時刻		終了時刻	
作業:	収穫祭(餅つき、豚汁)					
課題:	お米を作ったのは誰？					
目的:	お米作りを通して、人と自然の役割を考える。					
内容:						
要領:						
準備:	2000年に臼と杵は知人より入手した。かまどは児童館で借りる。					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名: 尾辻 義和、尾辻 隆子					
	参加者名: 石森,今江,内田,大野,田原,寺内,富樫,中野,西山,沼田,林,藤井,牧島,松原,鬼弦					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:					
	収穫祭(餅つき、豚汁)					

留意事項:						

備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	12月11日	日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日			開始時刻		終了時刻	
作業:	落ち葉拾い(堆肥作り)					
課題:	雑木林って何?					
目的:	雑木林の役割を考える。					
内容:	カニ山で落ち葉を集め、田んぼにベニヤ板で囲った堆肥置き場に積む。その時、米糠と鶏糞を混ぜ、水を十分にかけて、シートをかぶせる。					
要領:						
準備:	米糠(自前の米糠が約20Kg、他に山田屋お米館で有機栽培米糠3袋(15Kg×3)を購入する。また、農協(神代支店)で鶏糞2袋(10Kg×2)を購入する。					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容: 中止					

留意事項:	-----					

備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	12月11日	日	開始時刻	13時	終了時刻	16時
実施日	12月11日	日	開始時刻		終了時刻	
作業:	しめ縄作り					
課題:	稲藁の活用					
目的:	無駄のない稲作					
内容:	稲の繊維を活用した生活用品にはいろいろあるが、しめ縄もその一つ					
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名: 尾辻 義和、尾辻 隆子					
	参加者名: 石森, 今江, 内田, 大野, 田原, 寺内, 富樫, 中野, 沼田, 林, 藤井, 牧島, 松原, 鬼弦					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:	しめ縄作り				

備考:	留意事項:					

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	1月14日	土	開始時刻	9時	終了時刻	11時
実施日	1月15日	日	開始時刻		終了時刻	
作業:	堆肥切り返し					
課題:						
目的:	堆肥発酵促進					
内容:	堆肥を移動することで、堆肥の切り返しを行う。					
要領:	●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。					
準備:						
用具:	くい打ち用木製ハンマー、フォーク、バケツ					
服装・装備:	作業着、軍手、長靴					
担当者:						
実施記録:	指導担当者名: 尾辻 義和、尾辻 隆子					
	参加者名: 石森,今江,内田,大野,寺内,富樫,中野,西山,林,藤井,松原,鬼弦					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容:					
	堆肥切り返し					

留意事項:						

備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	1月14日	土	開始時刻	11時	終了時刻	13時
実施日	1月14日	土	開始時刻		終了時刻	
作業:	佐須地区どんど焼き					
課題:	どんど焼きってなに？					
目的:	地域に根づいている行事に関心を持ち、生活との関わりを学ぶ。					
内容:	佐須地区どんど焼きにて餅つきを手伝う					
要領:						
準備:	例年11時からつきたての餅を配り始める。青年会など関係者は9時頃から準備をしている。					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名: 石森, 今江, 内田, 大野, 田原, 寺内, 富樫, 中野, 沼田, 林, 藤井, 松原, 鬼弦					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:					
	佐須地区どんど焼きに参加					

備考:	留意事項:					

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	2月5日	日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	2月12日	日	開始時刻		終了時刻	
作業:	堆肥切り返し					
課題:						
目的:	堆肥発酵促進					
内容:	堆肥を移動することで、堆肥の切り返しを行う。					
要領:	<ul style="list-style-type: none"> ●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。 ●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。 ●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。 					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名: 尾辻 義和、尾辻 隆子					
	参加者名: 石森,今江,大野,寺内,富樫,中野,林,藤井,牧島,鬼弦					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:					
	堆肥切り返し					

留意事項:						

備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	2月5日	火	開始時刻	13時	終了時刻	15時
実施日	2月12日	日	開始時刻		終了時刻	
作業:	縄織い、草鞋づくり					
課題:	昔の人は稲藁でさまざまな生活に必要なものを作ってきました。そのひとつが縄です。今年から草鞋作りも行います。					
目的:	稲藁を使って縄を織うことを通して先人の知恵を学ぶ。					
内容:	稲藁を使った縄織い。					
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名: 尾辻 義和、尾辻 隆子					
	参加者名: 石森,今江,内田,大野,寺内,富樫,中野,林,藤井,牧島,松原,鬼弦					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:					
	縄織い、草鞋づくり					

留意事項:						

備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	3月11日	日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	3月11日	日	開始時刻		終了時刻	
作業:	堆肥切り返し					
課題:						
目的:	堆肥発酵促進					
内容:	堆肥を移動することで、堆肥の切り返しを行う。					
要領:	●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名: 尾辻 義和、尾辻 隆子					
	参加者名: 石森,今江,内田,大野,寺内,富樫,中野,西山,沼田,林,藤井,松原,鬼弦					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容:					
	堆肥切り返し					

留意事項:						

備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	3月11日	日	開始時刻	12時	終了時刻	15時
実施日	3月11日	日	開始時刻		終了時刻	
作業:	「田んぼの学校」卒業式(反省会)					
課題:	米つくりを終えて					
目的:	この1年で考えたこと、学んだことを確認する。					
内容:	●軽食を取りながら行う。●●					
要領:						
準備:	●場所を確保(佐須ふれあいの家)する●11時頃から一部の人で準備する。					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名: 尾辻 義和、尾辻 隆子					
	参加者名: 石森,今江,内田,大野,田原,寺内,富樫,中野,西山,沼田,林,藤井,牧島,松原,鬼弦					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容:					
	「田んぼの学校」卒業式(反省会)					

留意事項:						

備考:						

2011年日程表

No	プログラム名称	日付	曜日	開始時刻	終了時刻	作業・行事	課題	目的	内容	要領	準備
1		2月25日	水			「田んぼの学校」募集市報掲載					
2		3月20日	金			「田んぼの学校」募集市報掲載					
3	田んぼの学校	4月10日	日	13時	15時	◎「田んぼの学校」開校式 ◎説明会		当会の活動を理解してもらおう。また、今後の心構えなどを話し合う。	参加者顔合わせ(自己紹介)、年間予定説明、名簿作成、質疑応答。	●開会の挨拶 ●説明会(当会の概要、年間日程、援農) ●質疑応答 ●参加確認(多数の場合、抽選) ●参加費徴収 ●種籾配布 ●開会の挨拶	●佐須児童館集會室を借りる。 ●資料(野川散歩地図、会報)
4	田んぼの学校	4月17日	日			種籾準備(水に浸ける)	種って何? どうして芽が出るの?	種の働きを理解する。	種籾を選別し、発芽させる。	●最初に薄い食塩水(新鮮な卵が浮く程度)に種籾をつけて、浮いた種籾を選り分ける(苗床の余ったところで蒔いてみるのもいい)。●一度洗って、きれいな水に浸ける。酸素を必要とするので1日に一回は水を取りかえる。 ●発芽したら、冷蔵保存(5から10℃)する。 ●種蒔の前日に発芽していない場合、風呂の残り湯(30℃以下)に	●参加者に一握りづつ分けるもち米の種籾を用意する ●
5	田んぼの学校	4月23日	土	10時	15時	◎苗床作り		苗を育てる場所、苗の生長に大きな影響がある。苗が順調に生長するための準備を十分にします。種蒔きの2週間前に苗床を作るのは、雑草を取り除くためである。	●苗を育てるための苗床を作る。	●田んぼの南側に幅1.2m、長さ12mくらいの広さの短冊畝つくる。土の塊は種籾より小さくなるように、大きなものを手ですりつぶす。 ●高さは他と同じにする。高くすると、乾燥しやすくなるため。 ●畝の両脇は7cmくらいの深さで水路を作り水を入れる。	●農協で100mのネットを購入する。 ●湿った土では土が固まりやすいので、乾燥した時でない苗床つくりはできない。天候によっては日程を変更する。 ●ただし、代掻きした苗床に種を蒔く方法もある。(直
6	田んぼの学校	4月24日	日	10時	12時	◎種まき	種籾の不思議にせまる	苗半作という言葉があり、昔から苗作りが大切であることをあらわしていた。	●種籾を蒔く。	●もち米と粳米の種籾を4、6の割合で、区別(もち米に粳米が混ざるともちにならない)して蒔く。 ●種籾は重ならない程度に密に蒔く。 ●薄く(5mmほど)土をかける。 ●かまほこ状にネットをかける。	
7	田んぼの学校	4月24日	日	13時	15時	◎用水路清掃 ◎生き物観察	用水路には何がいます?	地域と用水路(佐須用水)の関わりを考える。なぜ、用水路にゴミを捨てるのか。	●佐須街道から野川までの佐須用水(本流)のゴミ拾いをする ●同じところで、水棲動物を捕獲して観察会	●用水路に入り、ゴミ拾いをする。 ●ゴミは分別する。 ●空缶の中にはザリガニがいるので、捕獲する。 ●ゴミはリヤカーで集め、児童館裏に置かせてもらう。	●クリーンセンター、佐須児童館に連絡をする。
8	田んぼの学校	5月15日	日	10時	12時	◎堆肥入れ ◎荒起こし ◎畦草刈り ◎くろつけ準備	堆肥の養分は何? 田んぼの荒起こしをしているとなぜか鳥がやってくる?	雑木林から落ち葉を集め、鶏糞や糠、藁などで堆肥を作る有機農法は昔から普通に農家で行われたことを理解する。化学肥料との違いは何かを考える。	●堆肥を田んぼに均等に撒く ●撒いた堆肥を耕運機で漕き込む ●畦の草刈りをする。 ●刈った草は田んぼに撒く。 ●畦の際に水路を作り、水を引	●水路に堰を作り、田んぼに水を引き入れる ●畦の際に水路を作る ●畦に泥を塗り付ける分を畦から削る	
9	田んぼの学校	6月5日	日	10時	12時	くろつけ	くろつけは何のため?	くろつけは水漏れを防ぐ知恵である。今ではコンクリートなどで整備された田んぼがあるが、なにもなければ知恵が働くと言うことを学ぶ。	●畦に泥を塗りつける。 ●	●取水口から一番遠いところからくろつけをする ●水加減をしながら泥をこねて、畦の上部と壁面に5cmくらいの厚さで泥を塗る ●くろつけが終わったら畦際の水路に水を引き入れ、くろが乾かないようにする	
10	田んぼの学校	6月10日	金	18時	20時	ホテル鑑賞会	ホテルはどこに棲む?	ホテルの生育できる環境を理解する。			
11	田んぼの学校	6月11日	土	10時	15時	◎苗取り ◎しろかき	しろかきは何のため?	くろつけが入れ物の縁とすると、しろかきが入れ物の底からの水漏れを防ぐ知恵である。昔から田んぼにしてきたところは底が粘土状になっている。	●苗代から苗を取り、わらで適量な量を束ねる。 ●取った苗は水に浸けておく。 ●田んぼに水を十分に入れ、耕運機で代掻きをする。 ●表面を水	●結束用のわらは、あらかじめ水にぬらしておく ●結わえた苗の束は籠に入れて水に浸しておく ●もち米と粳米の苗を絶対に混ぜない。 ●代掻きが終わる頃、水を止めると高低がわかる	●結束用のわら ●籠を用意する
12	田んぼの学校	6月12日	日	10時	13時	田植え	丈夫に育て!	米作りで田植えは昔から村総出で行う大きなイベントであった。昔も今も神様に祈る気持ちは同じである。人ができる主なことはここで終わると言うこともある。	●田植えをする ●南側にもち米を田んぼの四割くらい植える	●30cm間隔に印のついた縄(25m)を張り、印のついたところに植える。 ●縄は25cm間隔ですずらしていく。 ●苗を植える人は、植え終わったら一歩下がって自分の足跡をならす。 ●水は少な目に張る。	
13		6月19日	日			補植					
14	田んぼの学校	7月10日	日	10時	12時	◎一番草(草取り、根掻き) ◎畦草刈り ◎田んぼの生き物観察	田んぼに何がいます?	オタマジャクシ、ミジンコなど生き物でいっぱいになる田んぼでなにが起こっているか考える。			
15		8月18日	木	9時	12時	夏祭り準備			●テント張り ●ちょうちん付け ●やぐら紅白テープ巻き ●掲示板設置 ●当会は焼き鳥の模擬店として参加する。		●備長炭15Kg2箱 ●ビニールバツク、ビニール袋、輪ゴム、アルミホイール ●食材(串焼き鳥1日3000本、焼き鳥用タレ) ●保温用ダン
16	田んぼの学校	8月19日	金	15時	21時	柏野夏祭り参加(焼き鳥)		地域の祭りに参加し、交流を図る。	●2000本の焼き鳥(国産)を焼いて、1本100円で販売する。	●焼き鳥は冷凍なので、開封して自然解凍する。 ●発泡ダンボールの箱で保存する。 ●タレは焼いた後1回だけ	
17	田んぼの学校	8月20日	土	15時	21時	柏野夏祭り参加(焼き鳥)		地域の祭りに参加し、交流を図る。	●2000本の焼き鳥(国産)を焼いて、1本100円で販売する。	●焼き鳥は冷凍なので、開封して自然解凍する。 ●発泡ダンボールの箱で保存する。 ●タレは焼いた後1回だけ	
18		8月21日	日	9時	12時	夏祭り片付け					
19	田んぼの学校	9月4日	日	10時	11時	田んぼ生き物観察	田んぼに何がいます?				
20	田んぼの学校	9月4日	日	10時	13時	カカシ作り	カカシって何してるの?	稲の穂に付いた籾をねらって鳥が来る。人も鳥も生きていることを考える。			
21	田んぼの学校	9月25日	日	9時	16時	親子炭焼きディキャンプ		炭焼きの実験を体験し、雑木林の役割を考える。			
22	田んぼの学校	10月8日	土	10時	12時	◎ハザ掛け準備 ◎稲刈り			●ハザ掛けをつくる(南北4列) ●稲刈りはもち米から先にする ●うるちと混ぜられないように注意する。	●ハザ掛けの足場を先に刈る ●足は垂木3本1組として三脚を作る ●三脚3組で1列とし、4列作る ●梁の竹は細ければ2本組にする	●足になる垂木、3本1組、12組分 ●梁にする竹(10m)10本くらい ●網掛け用竹棒(3m)15本くらい ●鳥除け網40mくらい ●荒縄(太)1巻 ●結束用稲わら
23	田んぼの学校	10月9日	日	10時	12時	◎稲刈り ◎レンゲ種まき	刈った稲を干すのはなぜ?	稲を干すのはなぜなのか考える。	鳥除けの網を張る。		
24	田んぼの学校	10月23日	日	10時	12時	脱穀			●稲穂から種籾を取る ●来年の種籾を確保する。		佐須地区の共同脱穀機(自走式)を借り、田んぼへ移動する。
25	田んぼの学校	11月6日	日	10時	16時	籾摺り			●種籾から籾殻を取る		●籾摺り機 ●モーター ●みの ●米袋10枚

野川で遊ぶまちづくりの会

作成日2016/4/1719:22

2011年日程表

No	プログラム名称	日付	曜日	開始時刻	終了時刻	作業・行事	課題	目的	内容	要領	準備
26	田んぼの学校	11月13日	日	10時	14時	精米	玄米、胚芽米、精米の違いは何？	一粒の米に託されたものを考える。	●佐須地区共同小屋で精米する。● ●米量は7分くらいにする。	●	●佐須地区の共同精米所にて行う。●カギは当番のところで借りる。●精米費は30Kg200円？を会計担当に支払う。(領収書無しです。) ●カギと、会計の担当は竹内さんに確認する。●みの
27	田んぼの学校	11月23日	水	10時	15時	収穫祭(餅つき、豚汁)	お米を作ったのは誰？	お米作りを通して、人と自然の役割を考える。			2000年に臼と杵は知人より入手した。かまどは児童館で借りる。
28	田んぼの学校	12月11日	日	10時	12時	落ち葉拾い(堆肥作り)	雑木林って何？	雑木林の役割を考える。	カニ山で落ち葉を集め、田んぼにベニヤ板で囲った堆肥置き場に積む。その時、米糠と鶏糞を混ぜ、水を十分にかけ、シートをかぶせる。		米糠(自前の米糠が約20Kg、他に山田屋お米館で有機栽培米糠3袋(15Kg×3)を購入する。また、農協(神代支店)で鶏糞2袋(10Kg×2)を購入する。
29	田んぼの学校	12月11日	日	13時	16時	しめ縄作り	稲藁の活用	無駄のない稲作	稲の繊維を活用した生活用品にはいろいろあるが、しめ縄もその一つ		
30	田んぼの学校	1月14日	土	9時	11時	堆肥切り返し		堆肥発酵促進	堆肥を移動することで、堆肥の切り返しを行う。	●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。 ●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。 ●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。	
31	田んぼの学校	1月14日	土	11時	13時	佐須地区どんど焼き	どんど焼きってなに？	地域に根づいている行事に関心を持ち、生活との関わりを学ぶ。	佐須地区どんど焼きにて餅つきを手伝う		例年11時からつきたての餅を配り始める。青年会など関係者は9時頃から準備をしている。
32	田んぼの学校	2月5日	日	10時	12時	堆肥切り返し		堆肥発酵促進	堆肥を移動することで、堆肥の切り返しを行う。	●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。 ●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。 ●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。	
33	田んぼの学校	2月5日	火	13時	15時	縄織い、草鞋づくり	昔の人は稲藁でさまざまな生活に必要なものを作ってきました。そのひとつが縄です。今年から草鞋作りも行います。	稲藁を使って縄を織うことを通して先人の知恵を学ぶ。	稲藁を使った縄織い。		
34	田んぼの学校	3月11日	日	10時	12時	堆肥切り返し		堆肥発酵促進	堆肥を移動することで、堆肥の切り返しを行う。	●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。 ●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。 ●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。	
35	田んぼの学校	3月11日	日	12時	15時	「田んぼの学校」卒業式(反省会)	米づくりを終えて	この1年で考えたこと、学んだことを確認する。	●軽食を取りながら行う。●●		●場所を確保(佐須ふれあいの家)する●11時頃から一部の人で準備する。

野川で遊ぶまちづくりの会

作成日2016/4/1719:22

プログラム名称	日付	曜日	開始時刻	終了時刻	作業・行事	用具	服装・装備	担当者	備考
	2月25日	水			「田んぼの学校」募集市報掲載			市報で参加者募集	
	3月20日	金			「田んぼの学校」募集市報掲載			市報で参加者募集	
田んぼの学校	4月10日	日	13時	15時	◎「田んぼの学校」開校式 ◎説明会				
田んぼの学校	4月17日	日			種籾準備(水に浸ける)				
田んぼの学校	4月23日	土	10時	15時	◎苗床作り				
田んぼの学校	4月24日	日	10時	12時	◎種まき	ネット、ネットフレーム(20本)、ふるい			
田んぼの学校	4月24日	日	13時	15時	◎水路清掃 ◎生き物観察	●ゴミ袋、リヤカー、軍手●水槽、水棲動物用捕獲網		講師:平井氏(043-383-3468、03-3666-3327)	
田んぼの学校	5月15日	日	10時	12時	◎堆肥入れ ◎荒起こし ◎畦草刈り ◎くろつけ準備				
田んぼの学校	6月5日	日	10時	12時	くろつけ				
田んぼの学校	6月10日	金	18時	20時	ホテル鑑賞会				
田んぼの学校	6月11日	土	10時	15時	◎苗取り ◎しろかき				
田んぼの学校	6月12日	日	10時	13時	田植え				
	6月19日	日			補植				
田んぼの学校	7月10日	日	10時	12時	◎一番草(草取り、根掻き) ◎畦草刈り ◎田んぼの生き物観察			講師:平井氏(042-383-3468、03-3666-3327)	
	8月18日	木	9時	12時	夏祭り準備			柏野夏祭り準備	
田んぼの学校	8月19日	金	15時	21時	柏野夏祭り参加(焼き鳥)				
田んぼの学校	8月20日	土	15時	21時	柏野夏祭り参加(焼き鳥)				
	8月21日	日	9時	12時	夏祭り片付け			柏野夏祭り(片づけ)	
田んぼの学校	9月4日	日	10時	11時	田んぼ生き物観察				
田んぼの学校	9月4日	日	10時	13時	カカシ作り				
田んぼの学校	9月25日	日	9時	16時	親子炭焼きディキャンプ				
田んぼの学校	10月8日	土	10時	12時	◎ハザ掛け準備 ◎稲刈り				
田んぼの学校	10月9日	日	10時	12時	◎稲刈り ◎レンゲ種まき				
田んぼの学校	10月23日	日	10時	12時	脱穀				
田んぼの学校	11月6日	日	10時	16時	籾摺り				

野川で遊ぶまちづくりの会

作成日2016/4/17 19:22

プログラム名称	日付	曜日	開始時刻	終了時刻	作業・行事	用具	服装・装備	担当者	備考
田んぼの学校	11月13日	日	10時	14時	精米				
田んぼの学校	11月23日	水	10時	15時	収穫祭(餅つき、豚汁)				
田んぼの学校	12月11日	日	10時	12時	落ち葉拾い(堆肥作り)				
田んぼの学校	12月11日	日	13時	16時	しめ縄作り				
田んぼの学校	1月14日	土	9時	11時	堆肥切り返し	くい打ち用木製ハンマー、フォーク、バケツ	作業着、軍手、長靴		
田んぼの学校	1月14日	土	11時	13時	佐須地区どんど焼き				
田んぼの学校	2月5日	日	10時	12時	堆肥切り返し				
田んぼの学校	2月5日	火	13時	15時	縄織い、草鞋づくり				
田んぼの学校	3月11日	日	10時	12時	堆肥切り返し				
田んぼの学校	3月11日	日	12時	15時	「田んぼの学校」卒業式(反省会)				

3. おたより



みなさん、お元気ですか。いよいよ「田んぼの学校」が始まりました。この「おたより」はこれから「田んぼの学校」とみなさんとのお互いの架け橋として創られます。内容は、「田んぼの学校」からのお知らせや、みなさんからのご意見などです。「田んぼの学校」についてわからないことがありましたら、お知らせください。私たち「田んぼの学校」のスタッフも11年目になりましたが、まだまだ不慣れですので、気がついたこと、いたらないことがありましたら教えてください。わからないことも質問してください。

体験をより充実させる為に

さて、「田んぼの学校」では、みなさんが田んぼでやったこと、見たこと、感じたことを記録することをお勧めします。ノートか野帳（野外観察用のフィールドノート）を用意し、思い思いに記録してください。できましたら、写真（撮りきりカメラで十分）も有るといいと思います。その日にあったこと、学んだことをお子さんと一緒に振り返ることで、体験がより充実したものになります。

種はつながっている

お米の起源は約15000年前、インドもしくは中国雲南で始まったそうです。お米も最初は野生のもので、昔の人は野生の種をまいて育てたようです。そのうちに、まいて育てた稲から種をとるようになり、その種を持って東へ移り住み、または、東の地方にいる人に伝えられ、2000から3000年前に日本に伝わったといわれていましたが、それより以前、6千年前の縄文時代に稲作の痕跡が見つかっています。

お手元にある種籾は、そのときの種とつながっています。品種改良はされていても、遺伝子という形でつながっているのです。

つながらない種

科学が発達して、いろいろなことができるようになりました。その中でも重要なもののひとつに遺伝子に関する技術や発見があります。遺伝子組み換えは、はるか昔からつながっているお米の種に、つながらないものができるということを意味しています。大変難しい問題ですが、一度考えてみる必要があります。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

4月17日(日)の学習 内容「種粃(たねもみ)の準備」 場所「自宅」

昔から、お米の豊作を願わないものはいませんでした。その最初の仕事が種粃の選別です。中身の詰まった重い種粃が丈夫な稲に育つことを昔の人は経験的に知っていました。

ではどのようにして重い種粃と軽い種粃を区別したのでしょうか。昔の人は、泥水に種粃をつけて沈んだ種粃を使っていました。浮いた種粃は軽くて悪い種粃として選別していたのです。

今は、塩水を使います。薄い食塩水に種粃をつけると重くて良い種粃は沈み、軽くて栄養分の少ない種粃は浮きます。これを「塩水選」といいます。真水では沈む種粃も薄い食塩水では浮くのはなぜでしょうか。おとうさん、おかあさん、子供といっしょに考えましょう。

それでは、同封(開校式でお渡しした)した種粃(もち米で銘柄はマンゲツモチ)で塩水選をやってみましょう。

1. 準備

鍋やボールなど適当な入れ物を用意して下さい。

2. 食塩水

真水(水道水でも可)200ccに塩16gを溶かして下さい。この食塩水の比重は約1.08です。もち米はこの食塩水で塩水選をします。かなりしょっぱい食塩水です。

3. 塩水選

この食塩水に種粃をつけてください。

種粃全体をこの塩水につけ、ここで、

沈んだ種粃が良い種粃です。浮いた種粃と沈んだ種粃を別にしてとりだし、それぞれ水で洗ってください。(塩分がついたままでは発芽に悪い)

水の表面張力で浮いている場合がありますので、注意してください。

4. 芽だし

次に、発芽を促すために種粃を新鮮な水に浸けておきます。選別した種粃の両方を同じように別々に水につけてみてください。15℃の水で、約1週間つけると発芽します。20℃なら5日くらいになります。水の温度が高いと早く発芽します。4月25(日)が種まきの予定ですが、それより早く芽が出たら(芽と根が1mm位になったら)、水を切って当日まで冷蔵庫に入れておいてください。低温にすることで発芽の成長が一時的に止まります。

くれぐれも芽や根を伸ばしすぎないようにしてください。



以上



みなさん、お元気ですか。もうこの「おたより」の2回目になりました。

いよいよ、田んぼでのしごとがはじまります。田んぼでは、たくさんの生き物たちがみなさんをむかえてくれます。いろいろな草花、虫、鳥などです。どんな生き物に出会えるか楽しみですね。

わからないことがある場合は、遠慮なくお問い合わせ（080-5012-5327）ください。

畑の広さの単位

田んぼの広さの単位についてちょっと調べてみました。私たちの田んぼは、3畝（せ）あります。約100坪（つぼ）。坪は畳2枚（3.3平方m）です。

1畝（約99平方m）、10畝で1反（たん、約991平方m）、10反で1町（ちょう、約9917平方m）です。

1畝は約1アール、100アールで1ヘクタールなので、1町が約1ヘクタールになります。

豊臣秀吉は、太閤検地と呼ばれる田畑の全国測量を行いました。そのとき、度量衡の統一も行われました。そのときに、1反360歩を300歩にしました。1畝30歩となり、1アールにきわめて近い値になりました。秀吉（実際に指揮したのは石田三成）は1アールという単位を知っていたものと思っていきましたが、調べた範囲ではそれらしい記述が見つかりません。反あたりの税収を上げるために300歩にしたという記述がありましたが、どうでしょうか。みなさんも調べてみませんか。

苗づくり

私たちの田んぼでは、田んぼの中に苗床を作ります。温室などで苗を作らない場合、平均気温が20度以上にならないと成長に影響があります。今年は、この数年のなかでも寒いので、苗の成長が遅れるかもしれません。

お米を生産する農家では、機械植えが普通なので、苗は温室で育てられ、5月中ごろ（関東）には田植えが行われます。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

4月23日(土)の学習(10:00~15:00)、4月24日(日)(10:00~12:00)

内容： 苗床作り、種まき
場所： 田んぼ
持ち物その他： 作業着、軍手、昼食

苗床作り(23日)

苗床(なえとこ)は種籾をまいて稲の苗を育てるところです。発芽した種籾はここで丈夫な苗として育ちます。

1. 田んぼの南側寄りに1m幅、4m長の広さで苗床用の場所を東西方向に2本確保し、草を刈り取ります。
2. 耕運機でできるだけ細かく耕します。
3. 中央に1m幅の短冊状の畝(うね)を作ります。高さは周囲と同じ高さにします。
4. 両脇に10cmくらいの深さで水路をつけ、用水の引き込み口から水路をつなげて水を引き込めるようにします。
5. 畝は草の根やごみを取り除き、大きな土の固まりはふるいで選り分けて手ですりつぶします。



畦草刈り

農家の人にとって雑草(正確にはいろいろな野草というべき)は天敵と考えられています。雑草は、作物の栄養分を取ってしまったり、成長を妨げたりするからです。雑草取りは農家の人にとっては大変な重労働なので、除草剤などが使われたりしますが、有機農法では除草剤は使いません。最近では、雑草を味方にする研究なども行われています。いずれにしても、まわりの畑に雑草の種が撒き散らされることも有るので、雑草をそのままにすることはできません。

1. 小さい草刈りガマで畦(あぜ)の草刈りをします。
2. 刈り取った草は適当な場所に積み上げておきます。後日、荒起こしのときに田んぼに漉き込みます。このように刈り取った草は緑肥と呼ばれ、立派な有機肥料です。漉き込まれた草は土の中で腐敗して肥料になるからです。

畑の草取り

暖かくなると、畑にもどんどん草が生えてきます。小さいうちにとるのが賢明です。

種まき(24日午前)

みなさんに準備していただいた種籾(もち米)と当会が準備した種籾を苗床に蒔きます。蒔き方はいろいろありますが、ちょうど良く蒔く(?)のがいちばん。

1. 苗床をもち米用(南側)、うるち米用(北側)にわけます。
2. 用意した種籾を厚すぎず、薄すぎず、ちょうど良く蒔きます。
3. 各自準備した種籾も、蒔きます。
4. 蒔いた種籾の上に薄く(3から5mmくらい)細かい土をかけます。(覆土・ふくど)
5. 板などを使ってある程度土を固めます。(鎮圧・ちんあつ)
6. 苗床全体にかまぼこ状にネット(寒冷紗・かんれいしゃ)をかけます。(防鳥)
7. 水路に水を引き込みます。水はかれない程度に苗床の周囲に回るようにします。





みなさん、お元気ですか。もうこの「おたより」の3回目になりました。

私たちの田んぼは佐須の用水に依存しています。現在も水利組合によって私たちの使っている用水の支流は田んぼで水を使う時期に泥さらいを行っています。本流は残念ながら、手つかずの状態です。20年ほど前、佐須用水の貴重な環境に注目した私たちは、ゴミが大量に捨てられている用水路の清掃を兼ねた生き物観察会を始めました。最初の1、2年はトラック1台分位のゴミを回収したこともありましたが、いまではその10分の1くらいまで減っています。それでも、毎年ゴミが回収される状況が続いています。昔は、用水で洗い物などを行っていることもあり、ゴミを捨てるようなことはなかったと思いますが、今では、用水に依存することが多く住むようになって、その大切さが意識されていません。私たちの活動で、用水の貴重さが理解されることを期待しています。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

4月24日(日) (13:00~15:00)

- 内容： 用水路清掃、生き物観察会
場所： 佐須用水
持ち物その他： 作業着、軍手、用水路に入ることでできる靴（サンダルは不可）
子供の着替え（水につかってしまうことがあります）

用水路清掃

私たちの田んぼは、カニ山奥の谷戸から湧き出る水を利用しています。このように水を地域の人たちと共同で利用する場合、利用する人たちが集まって組合を作り、共同で管理することが大昔から行われてきました。「田んぼの学校」でも利用させていただき感謝の意味を込めて、また、そこに生きる生き物たちが棲みやすいようにと清掃活動を続けてきました。



用水路生き物観察会

用水路清掃にあわせて行われるのが用水路の生き物観察会です。田んぼに水を供給してくれる用水は、同時に、多くの水生生物の恵みにもなっています。湧水は元は直接飲料水に使えるほどきれいなものでしたが、多くの人が周りに住むようになり、その影響を受け、次第に飲料水としては使えなくなりました。（今でも沸騰させれば飲めます）用水路の生き物を観察することは、水の汚れ具合を知る指標にもなります。そこに生きている生き物が、この水の安全性を証明してくれているわけです。



みなさん、お元気ですか。

私たちの田んぼの最大の問題は水です。今年はどうでしょうか。

柏野小学校裏の田んぼ、ホタル園コーポ前の田んぼ、柏野小学校横の田んぼ、そして私たちの田んぼには大きな違いがありますが、気がついた人はいますか。柏野小学校裏の田んぼは冬の間、田んぼに草がほとんど生えませんでした。ホタル園コーポ前の田んぼは少しだけ草が生えていました。柏野小学校横の田んぼと私たちの田んぼは草でいっぱいでした。草が生えないということは、そこには草の種がまったくといていいほどないということを意味しています。それでも草の種は飛んできたり、動物が運んだりして芽を出し、成長して、やがて種を落としますが、その前に草を取ることで次の世代を作らなければ草のない畑になります。除草剤の助けがなければ、大変な仕事です。雑草が全く生えない田んぼはちょっと気になります。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

5月15日（日）10：00～13：00 の学習

内容「◎堆肥入れ◎畦草刈り◎畑草取り◎荒起こし◎くろつけ準備」 場所「田んぼ」

堆肥入れ

堆肥置き場から堆肥を田んぼに運び漉き込みます。堆肥としてはできるだけ十分に発酵したものを使いますが、そうでなくても、土の中で更に分解されて肥料となります。

1. 堆肥をリヤカーで4, 5杯分田んぼに運んできます。
2. 堆肥を田んぼ一面にまんべんなく撒きます。
3. 小枝などの硬いものは分解されにくいので取り除きます。

畑と畦の草刈り

くろつけを行うために、畦の草を刈り取ります。畑の草取りも一緒に行います。

荒起こし

田んぼ全体を耕運機で荒く耕し、堆肥を土に漉き込みます。

くろつけ準備

畦の整理（昨年くろつけで盛った土を削ったり、崩れている部分を補修）を行ない、畦にそって水路の水を引き込み、くろつけの準備をします。



みなさん、お元気ですか。

今年は発生した台風 1 号、2 号がともに日本に向かい、雨を降らせました。おかげで、5 月としては記録的な大雨となり、水の心配が少しなくなったかなと期待しています。ただ、梅雨入りも例年より早く、いろいろな弊害ももたしますので一概には喜べないかもしれません。その一つが、夏の低温です。

田んぼをはじめてから生活の中で一番変わったことが、雨を単純に毛嫌いすることがなくなったことです。それまでは、雨になると外出が億劫になったりしたのですが、結構雨を楽しめるように変わったのです。現金なものです。雨が大切な作物の生育に欠かせないものであり、生き物にとってなくてはならない水を供給する循環の一翼を担っている点で改めてその機能を見直したしだいです。

みなさんは、雨を楽しんでいますか？

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



荒起こし（5月15日）

6月5日(日)(10:00~15:00)の学習

内容「くろつけ」 場所「田んぼ」

服装 だろんこになつてもいい服装にしてください。子供は着替えを持ってきてください。
足で泥をこねたりしますので、長靴ではできません。基本的には裸足、地下足袋、靴下でやります。

持ち物 タオル、着替え、昼食

くろつけ

－「くろ」とは畦(あぜ)のことです。「くろつけ」は畦から水が漏れないようにするための作業です。泥をこねて、畦に泥を塗りつけて、表面を滑らかにします。土だけではたくさんの小さな穴が空いているので、水が漏れてしまいます。土を泥状にすることで、土の粒の間のすきまがなくなり、水が漏れにくくなります。写真はくろつけの様子です。

1. 畦にそつて引き込まれた水と田んぼの土をまぜて泥をこねる。泥は畦の天上部と内側に壁塗りをするように塗り付けるのにちょうどよい硬さにするのが早く仕上げるコツである。
2. くろつけは水の引き入れ口からみて一番奥の部分から仕上げていく。
3. くろつけが終わつたら、畦が乾かないように水路をつけて水を引き込んでおく。
4. 田んぼの内部にも水が入るように水路をつける。
5. 水路に水がなくならないように引き入れ口を調節する。





みなさん、お元気ですか。今年は例年より早く梅雨になりましたが、くろつけは天気にも恵まれ無事終えることができました。この5月は雨が多かったです。上流の田植えが終わっても水が十分にあるため、安心です。

今週の土曜日にしろかき、日曜日に田植えを行います。天気予報は雨模様ですが、多少の雨でも行いますので、その準備（合羽など）をしてください。

ホタルの観賞会は、昨年到现在中止になってしまいました。調布市では、ホタルを養殖しています。十分に幼虫が生育しなかつたりすると飛翔するホタルが少ないために観賞会が開催できないことがあります。今年は、幼虫の放流が十分でないために早々に中止になったものと思われます。

今年のくろつけ



昨年のしろかきと苗取りのようす



6月11日(土)(10:00~14:00)の学習

内容「しろかき」「苗取り」 **場所**「田んぼ」 **服装**「かなり汚れてもいい作業着」

足元「はだしか地下足袋、またはくつした」 **持ち物** 子供の着替え、タオル、昼食、水筒

しろかき

田んぼに水を引き、土と混ぜて、どろどろ状態にし、平らにして田植えの準備をすることを言います。大半に作業は耕耘機でやりますが、平らにならすのは人でなければできない仕事で、けっこう重労働です。

苗取り

苗床から元気に育った苗を取ります。乾いた土の状態ですと方法と、水を引いて土を洗いながらとる方法があります。今回はしろかきと同時なので水を引いて苗を取ります。

苗はもち米とうるち米と混ざらないように、もち米を取ってから、うるちを取ります。

取った苗は、一握りの大きさにして稲藁で結わえ、コンテナに入れて、水路につけておきます。

6月12日(日)(10:00~14:00)の学習

内容「田植え」 **場所**「田んぼ」 **服装**「かなり汚れてもいい作業着」

足元「はだしか地下足袋、またはくつした」 **持ち物** 子供の着替え、タオル、昼食、水筒

(注意 午前と午後に分けて作業をします。 午前中にくることができない場合はお知らせ

ください。)

田植え

お米の苗をしろかきの終わった田んぼに植え付けます。田んぼの南側から植え付けていきます。最初にもち米(全体の約半分)、次にうるち米を植え付けます。

1. 25cm間隔で目印のついた紐を用意して、東西方向に張る。(両端を人が持つ)
2. 苗を植える人は一握りの苗を持って、紐の北側に南を向いて適当な間隔で並びます。
3. 一度に植える苗は2、3本くらいで、大きな苗を植えるようにします。
4. 合図があったら、自分の持ち分に植え付ける。植え付ける場所は、紐の手前側に、目印のあるところ。
5. 自分の分が終わったら、一歩下がって、これから植え付けるところを手でならす。
6. 全員が終わったら、紐を25cm北側に移動する。
7. 以上を繰り返していく。



みなさん、お元気ですか。

今年は、水が十分にあるため、隣のたんぼでも田植えが終わりましたが、下のたんぼは今年はやらないかもしれません。写真にあるように苗は順調に成長していますが、水草もいっぱい。水草の影響は、水温が上がらないことくらいでしょうか。

昨年の写真と比べると 10 日とはいえ随分違います。

さて、たんぼの生き物たちはどうなっているのでしょうか。いつものようにたくさんの生き物がいるといいですね。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



7月14日(今年)のたんぼ



昨年7月4日

7月10日(日)(10:00~12:00)の学習

内容「畑の草取り」「草取り、根搔き」「畦草刈り」「生き物観察」 場所「田んぼ」

服装 普通に作業のできる服装できてください。草取り、根搔きは田んぼの様子を見てやり

ます。畑の草取りは行いますので、長袖、長ズボンでお願いします。

持ち物 タオル、軍手、蚊取り線香(携帯用)、飲み物

草取り(一番草)

この時期に行う草取りを一番草といいます。私たちの田んぼは、これまであまり草取りの必要がありませんでした。(草がほとんど生えない) やるとしても、目立って見える草だけを取ります。

根搔き

根搔きと言う作業は、稲の根の回りの泥をかき回して空気を送ったり、根を切ることで、根の生育を促進する目的があります。昔は、草取りと根搔きを両方を行う道具がありました。

根搔きの作業も私たちの田んぼでは、やっていません。根搔きはやったほうが良いという意見と、必要がないという意見があり、必ずしもどちらが良いとは言い切れないようです。

生き物観察

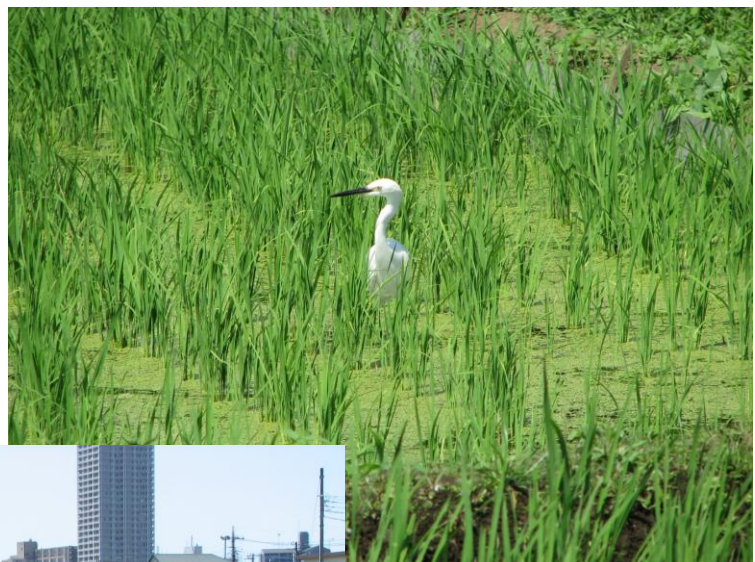
田んぼに水が入ると、田んぼには劇的な変化が現れます。その様子を観察します。



みなさん、お元気ですか。今年は、10日ほど早く梅雨が明け、夏が早く来ました。水の心配もなく、順調と言っていると思います。一昨年悩まされた、モグラの穴も対策（畔の中に竹を打ち込んで壁を作りました）が功を奏していると言っているでしょう。

今年も、昨年につき、用水路と田んぼの一体化による水管理をしています。水路の堰とセリの畑と田んぼの水面がほぼ一致していて、基本的に水中の生物が行き来できる状態になっています。田んぼはプランクトンが豊富で魚類、両生類、水生昆虫などにとって、餌に不自由しない場所となっています。昔の田んぼは大体そのようになっていたはずですが。殺虫剤や農薬、化学肥料などが使われるようになって、それらが用水路に流出することが問題となったので、田んぼの水を水路に戻すことをやめてしまいました。佐須の田んぼも用水路の整備を行った時点で田んぼに引き込んだ水は地中に浸透させるか、下水に流すようになっていました。私たちの田んぼは基本的に水路の水を汚すことがないため、一体化を考えていました。

7月10日となりの田んぼで餌をさがすコサギ



田んぼの生き物観察会の様子

柏野夏祭り

「田んぼの学校」では、地域の方々との交流を積極的に行うため、毎年柏野小学校で行われる地域の夏祭り「柏野夏祭り」に模擬店「焼鳥屋」で参加しています。今年の日程は以下の通りです。

8月18日(木)	9:00から12:00	会場設営
8月19日(金)	16:30から20:00	夏祭り
8月20日(土)	16:30から20:00	夏祭り
8月21日(日)	9:00から12:00	片づけ

夏祭りへの参加はボランティアで、自由参加ですが、焼き鳥を焼く体験は大変楽しく、また貴重（他ではできない体験）です。当会の貴重な運営資金を作る場でもあり、是非参加してください。特に金曜日はスタッフが足りません。奮って参加を。夏祭りの子ども向け模擬店もゲーム、綿飴、かき氷など盛りだくさんで、

子どもになかなかの評判です。参加の希望は、8月12日までに尾辻（TEL/FAX 042-487-4385）まで参加申し込み表をFAXするか、参加枠記号を電話でご連絡ください。参加の時間帯も自由です。

つまみ、お酒の差し入れ大歓迎です。詳しいことは、電話でお尋ねください。

8月12日までに必ずFAX（042-487-4385）

柏野夏祭り参加申し込み（FAX用）

出席 欠席 します。（どちらかに○）

参加者氏名

参加できる欄（いくつでも可）に○を記入してください。

参加枠記号	日付	時間帯	内容	参加（○）
A	8月18日(木)	9:00～12:00	会場設営	
B	8月19日(金)	13:00～16:30	仕込み(焼き鳥を解凍します)	
C	8月19日(金)	16:30～18:30	焼き鳥販売(焼きと売り子)	
D	8月19日(金)	18:30～20:00	焼き鳥販売(焼きと売り子)	
E	8月20日(土)	13:00～16:30	仕込み(焼き鳥を解凍します)	
F	8月20日(土)	16:30～18:30	焼き鳥販売(焼きと売り子)	
G	8月20日(土)	18:30～20:00	焼き鳥販売(焼きと売り子)	
H	8月21日(日)	9:00～12:00	片づけ	



みなさん、お元気ですか。今年の夏は梅雨がいつもより早く上がりましたが、戻り梅雨で帳尻があったようです。

柏野小学校の夏祭りは雨になりましたが、準備した4,400本のうち、金曜日約2,000本、土曜日2,200本を売上げました。完売とはなりませんでしたが、お手伝いいただいた皆様に、改めて御礼申し上げます。

さて、一昨年、昨年とスズメ被害で、収穫が減るという大変な事態になりました。昨年は早めの対策が必要と思い、穂が出ると同時に全面を防鳥網で覆うことにしましたが、それでも、網を全然恐れないスズメが隙間から入って食べているほどでした。今年は、昨年の経験を生かして、2重に網を張るなど万全を期しました。

「スズメ対策」の定番といえば、案山子（かかし）です。大いに工夫してスズメの恐がる案山子を作ってください。光ったり、音が出たりするものがあるといいかな？ ことしも創造性豊かな案山子を期待しています。

みなさんのご意見、
お便りをお待ち
しています。



8月28日の田んぼです。

9月4日（日）（10：00～13：00）の学習

内容「田んぼの観察、カカシ作り」 場所「田んぼ」

持参するもの 案山子の材料（垂木以外のもの）、大工道具

田んぼの観察

いよいよ秋らしくなってきました。田んぼの様子も少しずつ変わっています。秋の田んぼをじっくりと観察してみましよう。

カカシ（案山子）作り

芸術の秋とも言います。調布のすずめは少し賢いので、みなさんの創意工夫をおおいに期待しています。芸術性を追求するか、実用本位でいくか家族会議で検討してください。一家族で案山子一体作っていただきます。骨格となる部分の垂木は事務局で用意します。案山子に着せる服や、飾り付けなどの材料や大工道具は持参してください。



一昨年のスズメに食べられた様子



みなさん、お元気ですか。今回はカニ山でキャンプをします。カニ山は、田んぼの用水が湧き出ている谷の雑木林で、昔、たくさんの湧き水があって、沢ガニがたくさんいたのでこの名前が付いたようです。コナラ、クヌギといった武蔵野の雑木林を今も残しているところです。雑木林は、堆肥にする落ち葉や薪にするシバ、炭や薪にする材木を取るために、人が入って管理していた自然（二次自然ともいう）の森です。そのため、切り株からまた枝をのばして大きくなる（萌芽更新という）コナラやクヌギの仲間が残され、木の背丈も10m位に維持されていました。ちょうど薪にしたり、炭焼きにするのにいい太さで切られるためにいつもそのくらいになるわけです。現在、都会にある自然を残すために、雑木林が残されることがありますが、その多くは、人間が手を入れないため、コナラ、クヌギなどが大きくなりすぎて、昔の「武蔵野の雑木林」の面影を残してはいません。カニ山も残念ながら、木が大きくなり過ぎ、人もたくさんはいるので、地面が固くなっています。本来の雑木林は、その地面にたくさんの水を含んで貯める保水機能も持っていて、湧き水が枯れない要因にもなっています。



十分に実った稲穂

炭焼きキャンプの出欠連絡

炭焼きキャンプの出欠について、[9月23日夜までにFAXまたは留守電（042-487-4385）](tel:042-487-4385)（次ページ）で尾辻宛必ずご連絡下さい。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



勢ぞろいしたカカシ

9月25日(日) 9:00~16:00の学習

内容 炭焼きキャンプ 場所 カニ山

持ち物 食器(はし、皿、茶碗、お椀、カップ)、調理器(包丁)、着替え、おやつ(飲み物はこちらで用意します)、空き缶(鉄板でできた茶筒やせんべいの箱などで、しっかりふたができるもの。炭焼きに使います)、炭材(炭にしたいもの。マツボックリ、ドングリ、栗、割り箸、花など)、差し入れ(自由です。おやつや酒の肴など歓迎)、お米(幼児を除く参加者一人1合)
(はチェックのためにお使いください。)

参加費 大人 700円、小学生以上の子ども 200円、幼児(無料)

その他 駐車場がないので、車での参加はご遠慮下さい。雨天の場合は中止(連絡網にて

通

知)とします。

スケジュール

9月25日(日)

9:00 集合 カニ山キャンプ場(かまどがあるところ)。時間厳守
10:00 授業 火起こし(火起こしの学習)、炭焼き、焼き芋
11:00 昼食準備(父母)
12:00 昼食 カレー、サンマの予定(炭で焼きます)
13:30 炭焼き終了、懇談
15:30 片付け
16:00 解散

-----切り取り-----

「田んぼの学校」事務局宛 FAX (042-487-4385)

炭焼きキャンプに参加します。

参加者氏名	区分(○を付ける)
	大人、小中学生、幼児
	大人、小中学生、幼児
	大人、小中学生、幼児
	大人、小中学生、幼児
	大人、小中学生、幼児

参加費

大人 人 × 700円 = 円
+ 小中学生 人 × 200円 = 円

合計 円



みなさん、お元気ですか。いよいよ稲刈りです。5月1日に種まきをしてから5ヶ月、6月19日に田植えをしてから4ヶ月弱、順調に生育し、雀の被害もほとんどなく、稲刈りを迎えることができました。東北の大地震、原発の事故、耕運機の故障、台風の直撃など、大変な一年でした。例年水の問題が起きるような状態が続きましたが、今年は雨がよく振ったので、湧水が途切れることなく安心できました。

調布産の、自分たちの新米を食べるのが今から楽しみです。うるち米は「キヌヒカリ」という品種です。有名なコシヒカリの遺伝子を受け継いでいる品種です。もち米はマンゲツモチという品種です。

刈り取った稲ははざかけをします。2週間くらいで稲は乾燥し、脱穀できるようになります。十分に乾燥していないと脱穀した粃が発酵してしまうことがあります。

はざかけ（はさかけともいう）の「はさ（稲架）」は刈り取った稲をかけて干すしくみのことです。日本全国にいろいろな形があります。田んぼの畦に木がある光景を見たことがありますか。

あれは、はさかけのために植えられたはんのき（榛の木）です。（カバノキ科の落葉高木。山野の湿地に自生。幹は直立し、15メートルに達する。）湿地に直立してくれるということは、はさの心棒にはもってこいですね。

稲刈りは、刈り取り用のカマを使います。カマの扱いには、十分気をつけてください。みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



はざかけされた稲

10月8日(土)(10:00~12:00)の学習

10月9日(日)(10:00~12:00)の学習

内容「ハザ掛け準備、稲刈り」 場所「田んぼ」

服装 長袖、長ズボンの作業着、軍手

ハザ掛け準備

はざは、1段掛けのものを南北に4列田んぼ内に設置します。

1. 最初にはざの足場用の場所(6箇所)の稲刈りを最初に行います。
2. 足場用の垂木3本を1組にして荒縄で組んで3脚にしたものを、合計12組作ります。
3. 1列につき、3組の足場を並べます。
4. 10m前後の竹竿を3本くらい束ねて丈夫な1本の竿にして、足場の上に固定します。
5. 必要に応じて、竿を補強してください。

稲刈り

8日はうるち米、9日はもち米の刈り取りをします。

1. 稲株を左手で握り、右手の鎌で根元から刈ります。
2. 刈り取った稲は1握り分づつを根元をクロスさせて2握りを1組にしておいていきます。
3. クロスしておかれた稲の束を濡らした稲わら3、4本で根元を結わえます。
4. 結わえられた稲束をクロスしたところで左右に振り分けてはさに掛けていきます。
5. はさかけの周りに鳥除けの網を張ります。



みなさん、お元気ですか。雨で1週間遅れの脱穀となります。すずめの被害対策を十分に行ったおかげで被害がほとんどなく一安心です。

稲刈り直後はよく晴れた日が続いて、稲の乾燥も順調でしたが、土曜日に雨が降り、今週に延期となりました。通常ですと2, 3週間も乾燥させると稲わらの水分もなくなりずいぶん軽くなります。脱穀とは、稲から粃を分離させることです。大昔は千把扱き（せんばこき）というもので脱穀していました。鉄片を櫛の歯のように並べ、それへ稲穂をひっかけて、粃（もみ）をしごき落とします。約300年前の元禄年間（1688-1704）に考案されたようですが、いまでも農家の納屋にこれが残っていることがあり、昭和のはじめ頃までは使っていたのではないかと思います。

当会には、足踏み脱穀機（ミノル式）がありましたが、これは、1910年（明治43年）の発明といわれています。千把扱きに比べ8倍の能力があるそうです。脱穀機で落とした粃と藁くずを分別する機械が唐箕（とうみ）です。唐箕の前は、風を利用して箕に入れた粃と藁くずを振って分別していました。脱穀している時は、ほこりがたくさん出ます。ぼうしとマスクを用意してください。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

先日の稲刈りの様子



ハザ掛け(昨年から1段4列)



10月30日(日)(10:00~12:00)の学習

内容「脱穀」、場所「田んぼ」

服装「作業着、ぼうし、マスク」

なお、前日、当日が雨天の場合、翌週の11月6日(日)(10:00~12:00)に延期します。

脱穀(だっこく)

稲穂から粃を取ることを脱穀といいます。粃の状態は種と同じで、長期保存する場合は粃の状態で行います。次の年の種にするものは特に種粃といいます。

縄文時代前期(6000年前)には日本で稲作がおこなわれていた遺跡(陸稲米)が見つかっており、弥生時代中期には北海道以外の日本全国で稲作(水稲)がおこなわれるようになったようです。その頃の脱穀はおそらく手か石器でしごき取っていたと思われます。

脱穀は、組合所有の脱穀機を使います。ガソリンエンジンで自走でき、あっという間に脱穀は終わります。



みなさん、お元気ですか。1週間遅れて10月30日に天日干しされた稲穂から粃を取る脱穀を行いました。今週は、粃摺りです。粃摺りは粃の外皮を取り除く作業です。江戸時代には土臼などが使われたようですが、現在はゴムロール式と衝撃式といういずれもゴムを使ったものになっています。現在、田んぼの学校で使っている粃摺り機は近所の農家から譲り受けたものですが、傷みが激しく、やっと動作しているような状況です。今年も何とか動いてほしいと思っています。

粃摺りによって粃殻(外皮)がとれた米を「玄米」といいます。最近はこの「玄米」を食べる人が増えてきました。これは、普通みなさんが食べている「白米」にくらべてビタミンB群、E、リノール酸、ミネラルなどの栄養価の高い成分が多く含まれていることや、便秘に効くということがあるためです。ただ、炊き方がややめんどろです。それでも、最近の炊飯器は優れたものが多いです。玄米も柔らかく炊けます。

「玄米」と「白米」の間に「胚芽米(はいがまい)」、「発芽玄米」というのがあります。以前から「白米」を10分として、ぬか部分の削り具合によって3分・5分・7分搗きというお米がありました。「胚芽米」は特に重要な「胚芽(発芽する部分)」を残すようにしたものを言うようです。「玄米」の表面には消化されにくい米ぬか層があり、「胚芽」を含めてこれを全部削り取ったものが「白米」になるわけです。「胚芽米」にもその削り加減で3分・5分・7分搗きなどがあります。「胚芽米」は米ぬかに含まれている前記の栄養があるうえ、「白米」と同じ様に炊くことが出来、消化吸收もいいということで、人気があるようです。

「発芽胚芽米」というのを聞いたことがありますか。「胚芽米」を研いだ後、40度くらいのぬるま湯に2時間ほどつけると、胚芽部分が膨らみます。詳しいことはわかりませんが、ぬるま湯につけることで発芽が進むようです。この後、普通に炊くと出来上がります。「胚芽米」と「発芽胚芽米」のどちらがおいしいか、どちらがより栄養価が高いかはよくわかりません。みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

脱穀機による脱穀





脱穀された稲藁

11月6日（日）（10：00～14：00）の学習

内容「籾摺り」 場所「田んぼ」

籾摺り

脱穀で稲わらから取った稲の実を籾といいます。籾は種の状態、外皮に守られていますので、長期に保存が出来ます。籾から外皮(籾殻)を取り除いて「玄米」にする作業が籾摺りです。この言葉は文字どおり籾を擦りあわせることが語源になっています。籾殻は結構頑丈に出来ていて、つめを立てないと取れません。どうすればこの外皮をうまくとれるのでしょうか？みなさん、考えてみてください。持ってこれる方はすり鉢とゴムの野球ボールをお持ちください。答えは田んぼで。



みなさん、お元気ですか。先日、粃摺りを行いました。一昨年はスズメの被害で80Kg(玄米)しかありませんでしたが、今年は昨年より少し多い150Kgくらいはありそうです。正確には13日に計ります。

今年は、野川で遊ぶまちづくりの会が米作りを始めて20年目になりますが、その間ずっと利用させていただいた共同小屋(精米機や製粉機、半鐘などもある)が今年限りで道路整備のために取り壊されることになりました。共同小屋の存続については結論が出ていないようですが、当会としては、地域のコミュニティを活性化させる意味で別の場所での存続を希望しています。みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

右の写真はもみすりの様子です。



これが、粃摺り機です。
近くの農家に譲っていただきました。

11月13日（日）（10：00～13：00）の学習

内容「精米」 場所「佐須共同精米小屋」

精米

粳摺りが終わった状態のお米が玄米と呼ばれます。玄米から胚芽米や白米にすることを「精米」といいます。もち米はぬかを全部取り、「白米」にします。うるち米は5分搗きを目標に精米します。精米所では、場所が狭いので見学だけの授業となります。時間内のどこかで見学するようにしてください。



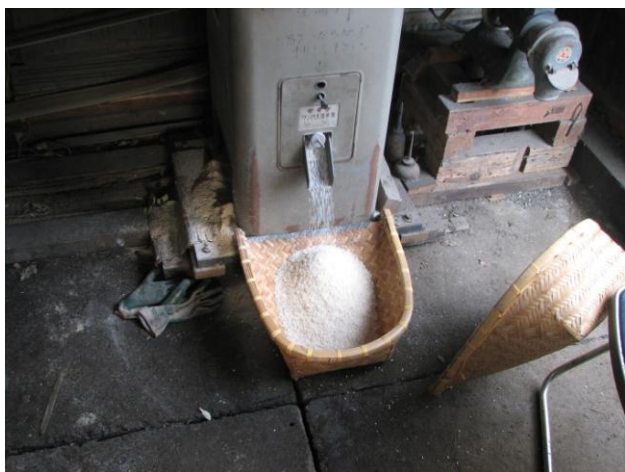
みなさん、お元気ですか。稲刈り、脱穀、粳摺り、精米が順調に終了することが出来、いよいよ収穫祭です。今年の収穫は、すずめの被害を最小限に抑えることができ、まずまずの約140Kgでした。

さて、私たちの作ったうるち米は関東で比較的多く栽培されている「きぬひかり」という銘柄です。茨城県では奨励品種になっています。コシヒカリの血統を受け継ぎ、炊きあがりの絹のような色つや、そして食味も好評ということです。お米の味は、新米の精米直後がよりおいしく味わえます。また、炊き方によっても味が変わってくるので、おいしく食べるには細心の注意を払ってください。おいしく炊くコツの一つはお米を研いだ後の「浸けおき」です。20度の水温の水で1時間つけると最適です。何かと忙しいおりですが、段取りを付けて、1時間浸けおきをしてみてください。

収穫祭のお知らせ

収穫祭は、作物の収穫を祝って行うお祭りです。毎年11月23日の勤労感謝の日に行ってきましたが、それなりに意味があります。この日は、「新嘗祭（にいなめさい）」が行われている日に当たります。「新嘗祭」は「しんじょうさい」ともいい、「新」は新穀を「嘗」はご馳走を意味します。毎年この日に全国の神社で行われ、新穀を得たことを神さまに感謝する新嘗祭は、五穀の豊穰を祈願した2月17日の祈年祭と相対する関係にあるお祭りです。新嘗祭の起源は古く、『古事記』にも天照大御神が新嘗祭を行ったことが記されています。私たちの会では、収穫をもたらしてくれたすべてのものに感謝の気持ちを表すために収穫祭を行っています。出来るだけたくさんの人とお祝いしたいと思いますので、お友達などお誘い合わせの上、おいで頂きたいと思います。お祝い事ですので、お酒やおつまみなどの持ち込みは大歓迎です。

つきたてのお餅を食べるときの具（おろし醤油、納豆、きな粉、あんこなど）をいろいろ用意しておりますが、ご自分の田舎で食べる具でこれはぜひというのがありましたら、みなさんにご披露してください。なお、お年寄りの方（70歳以上）、幼児は無料で参加いただけます。みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



上の写真は、精米中の様子



上の写真は今年限りで解体される共同小屋

11月23日(水)(9:30~15:00)の学習

内容「収穫祭」 場所「田んぼ」

持ち物 お椀、お皿、はし、飲み物、包丁、まな板

会費 大人(中学生以上)300円、子供(小学生)100円(食材費に当てます)

酒代(お酒を飲む人)

その他 当日が雨の場合、11月27日(日)に順延します。

収穫祭

田んぼで取れたもち米(約20Kg)で餅つきを行います。最初の一臼は一年の感謝を込めて、お供えもちとして竹内さんに献上します。二臼目からはいろいろな具といっしょに皆さんで味わっていただきます。お餅の他には豚汁、焼き物(干物、焼き芋など)を用意する予定です。

参考までに餅つきの簡単な手順を説明します。

餅つきの手順

1. もち米の浸けおき

もち米は前日に研いで、水に浸けておきます。

2. 湯沸かし

蒸し器用の湯とは別にお湯をたくさん沸かします。洗い物や、臼、杵を温めておいたりするために使います。

3. もち米を蒸す

浸けおきしたもち米はざるで水を切った後、蒸し器に1升(1臼分)ずついれて蒸します。お米の芯が残らないように十分に蒸します。

4. こねる

蒸しあがったもち米は手早く臼に入れ、米粒の形がなくなるまで、杵でこねてすりつぶします。これもできるだけ早くやります。

5. 搗く

十分にこねたら、搗き始めます。臼の中の餅は搗きやすいように相方が手で寄せます。搗き手と相方の呼吸が大事です。また、餅が熱いため、手に水を付けますが、つけすぎると水っぽくなるので、注意が必要です。

搗いた杵がもちから反発力を感じるようになれば搗き上がりです。

6. 粉にまぶす

搗きあがった餅はそのままでは何にでもくっつくので、のし台に米粉や片栗粉でまぶします。

追伸

今年は、とれたお米を希望する方に1Kg400円で販売します。23日に一家族あたりうるち米3Kg、もち米1Kg(合計1,600円)販売します。

うるち米を玄米で希望する方は、尾辻(042-487-4385)までご連絡ください。



みなさん、お元気ですか。関東の平野部や調布でも紅葉が見られるようになりました。早いものはすでに葉を散らしています。予定では、カニ山で落ち葉拾いとしめ縄作りをすることになっていましたが、原発事故の影響を考慮して、落ち葉拾いは中止とします。厳密に計測をしたわけではありませんが、落ち葉を集めると濃度が濃くなることが考えられるためです。特に子どもには放射線の被害にあわすわけにはいきません。

落ち葉拾いは中止にしますが、落ち葉などによる堆肥作りは農業に一番大切な「土づくり」にかかせない作業の一つです。「土づくり」のなかで一つの柱となるのが栄養分でしょう。肥えた土地、痩せた土地という時、栄養分が有るか無いかを示しています。これまで、20年間、無農薬、有機栽培を目標に、毎年田んぼに堆肥を入れてきました。堆肥の原料は、カニ山の落ち葉、農協で購入する鶏糞、収穫したお米を精米した時に取れる米ぬかなどです。堆肥を作る場所は竹内さんの堆肥置き場を共同で使わせていただいています。落ち葉、鶏糞、米ぬかは、混ぜ合わせて寝かせます。寝かせた落ち葉は菌類などの働きにより発酵します。発酵が順調に進むように適度に天地返し作業をします。完全な有機栽培にはこのような「土づくり」が何より大切です。農業の基本は土づくりといってもいいくらいです。カニ山は、田んぼの用水が湧き出ている谷の雑木林で、昔、たくさんの湧き水があって、沢ガニがたくさんいたのでこの名前が付いたようです。コナラ、クヌギといった武蔵野の雑木林を今も残しているところです。雑木林は、堆肥にする落ち葉や薪にするシバ、炭や薪にする材木を取るために、人が入って管理していた自然（二次自然ともいう）の森です。そのため、切り株からまた枝をのぼして大きくなる（萌芽更新という）コナラやクヌギの仲間が残され、木の背丈も10m位に維持されていました。ちょうど薪にしたり、炭焼きにするのにいい太さで切られるためにいつもそのくらいになるわけです。現在、都会にある自然を残すために、雑木林が残されることがありますが、その多くは、人間が手を入れないため、コナラ、クヌギなどが大きくなりすぎて、昔の「武蔵野の雑木林」の面影を残してはいません。カニ山も残念ながら、木が大きくなり過ぎ、人もたくさんはいるので、地面が固くなっています。本来の雑木林は、その地面にたくさんの水を含んで貯める保水機能も持っていて、湧き水が枯れない要因にもなっています。



収穫祭のようす

搗きあがったお餅

しめ縄づくり

今回の学習のもう一つの課題はしめ縄作りです。今年の稲わらを使って、来年のお正月に使うしめ縄をつくります。

「しめ縄」には、「注連縄」、「標縄」、「七五三縄」、「メ縄」、「締縄」など、多くの表記があるようです。注連（ちゅうれん）は、中国で死霊が入り込まないように、水を注いで清め連ねて張った縄を意味し、七五三縄は注連に垂らすわらの数からきているようです。

これらのことなどが日本古来の神事などと融合して、家の入口にしめ縄をはり、不浄なものを家に入れないという意味合いで使われるようになったようです。しめ縄が稲わらで作られることにも意味があるようですが、ここでは触れません。

来年の皆さんの一年が良い年になるように願いを込めてしめ縄を作りたいと思います。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

12月11日（日）9：00～12：00）の学習

内容 しめ縄作り

場所 佐須ふれあいの家

持ち物 しめ縄につける飾り（半紙など）



新年あけましておめでとうございます。田んぼの学校の授業もあと3回となりました。もう少しがんばりましょう。去年は東北大震災と福島第一原発の事故により、自然災害だけでなく、あってはならない放射能汚染という事態が起こってしまいました。これまでもチェルノブイリなど原発事故はありましたが、日本で起こってしまったことに無念の思いを抱かざるをえません。「絶対にこのような事故は起こらない」という言葉に、起こってほしくないという気持ちが油断を生んでしまいました。現代に生きる親の世代として、この責任は負わなければなりません。子供や孫、曾孫によりよい環境を残すことは重要な使命であり、責務だと思います。

さて、今回の授業は佐須地域の行事「どんど焼き」体験と「土作り」としての落ち葉たい肥の天地返しです。

「どんど焼き」は、お正月の松飾りや門松、書初めなどを持ち寄り、集めて燃やします。その火にあたることで、一年間の無病息災がかなうといわれています。また、その熾火（おきび）でお餅や団子を焼いて食べることで風邪をひかないなどといわれています。いずれにしても昔から行われてきているこのような行事の謂われなどは多分に神様（昔からいたる所に神様が宿っていた）に対する感謝と願いが込められたものであることに違いはないように思われます。今回の授業では、実際にその行事を見学し、あらためてそのような行事が地域で長年にわたり続けられてきたのかということを考えていただければと思います。



上と左の写真はおととしのどんど焼き

もうひとつの授業が「土作り」です。昨年は、放射能の汚染問題があるため、落ち葉集めを中止しました。今回の天地返しは、一昨年に積んだ堆肥について行います。落ち葉はただ積んでおくだけでも自然発酵してたい肥にはなりますが、やはり手を加えることで短期間に良いたい肥ができます。その作業の一つが積まれている落ち葉をひっくり返す天地返しです。天地返しにはいろいろな効果があります。その一つが満遍なく発酵させること。空気を混ぜることで発酵を促進させることなどです。



上の写真は3 mほども積まれた落ち葉（一昨年）

1月14日（土）（11：00～12：00）の学習

内容「どんど焼き」体験 場所「田んぼ近く祇園寺前」
持ち物 箸と器（搗きたてのおもちが振る舞われます）

どんど焼き(佐須地域の行事参加)

かつて、農村の集落ではどこでも行われていたと思われるお正月の行事としてどんど焼き（地域によって呼び方が異なる）があります。佐須地域でも一時途絶えていたものを地域の青年会が復活して20年をこえる事業になっています。

1月15日（日）（9：00～11：00）の学習

内容「天地返し」 場所「田んぼ近くのたい肥集積所」
準備 足元は長靴がおすすめです。

たい肥天地返し

たい肥の集積所に積まれている落ち葉をひっくり返す作業を行います。



皆さんお元気ですか？ 2月の授業では、縄緬い（稲わらで縄を作ること）を学習します。冬の間お米作りをやっている農家では田んぼでの作業がないかわりに家の中で行う作業がありました。その代表的なものが縄緬いです。インターネットで探してみると地域特産物マイスター協議会・財団法人 日本特産農産物協会が発行する「地域特産物マイスター通信」という広報誌にこんな文章がありました。「百姓仕事にとって縄緬いは基本作業だった。結ぶにも、担うにも、運ぶにも、入れるにも、敷くにも、履くにも、そして保温にも、皆、縄が不可欠だ。目的に沿った稲藁の選択、湿り具合と打ち加減、縄緬いのワザとコツ、何処の軒先に立っても藁を打つ槌音とショリショリと繰り返されるリズムが聞こえた。右の掌と左の掌の巧妙なワザが緬う1本の藁縄には、時間（歴史）と空間（地域社会）が織り成す文化があった。」

2000年を超えるお米作りの伝統のなかに、農作業や普段の生活に欠かせない様々なものを提供したのが稲藁で作る縄であったり、草履であったり、米俵などでありました。お米作りを学んでいて一番驚いたことは、収穫されたお米だけでなく、粃殻、米ぬか、稲藁などその課程で生まれる副産物が一つも無駄になっていないことです。ここではいちいち書きませんが、ぜひ皆さんインターネットなどで探してどんなものがあるか調べてみてください。調べたら、是非皆さんに教えてください。

2月12日（日）（9：00～12：00）の学習

内容「縄緬い」 場所：佐須ふれあいの家
室内なので雨でもやります。藁草履作りに挑戦します。
午後も授業がありますので、お弁当をお持ちください。

2月12日（日）（13：00～15：00）の学習

内容「堆肥天地返し」 場所：堆肥堆積所
履物は長靴をお勧めします。
雨の場合中止。

縄緬い

稲刈りをし、脱穀した稲藁は、実は大変な貴重品になっています。皆さんは実際に稲刈りをしているので、その大変さがわかると思いますが、農家で作っている田んぼの広さは、私たちの田んぼ（3畝）の最低でも10倍から大きいところはおそらく数百倍で、とても手では刈り取りできる広さではありません。コンバインという機械で刈り取りしますが、稲藁がそのままではかさばるため、同時に粉々にしてしまいます。だから、稲藁もありません。そのため、稲藁は大変貴重なものになっています。

さて、縄緬いですが、いわゆる手仕事です。上手に、早く縄を作ることはなかなか大変です。でも、自分で作ることに大きな意味があります。そんなことが体験できればいいなと思います。みなさん、お楽しみに。



東日本大震災が発生して、あっという間の一年でした。直後に発生した原発事故で、あわや、関東一円が放射能に襲われるかもしれないという最悪の状況に陥りました。生きた心地がしなかったというのはこのようなことではないでしょうか。電力会社が絶対にないと言ってきた事故が発生し、それも炉心溶融という重大事故でした。後からわかってきたことは、最悪の状態にもかかわらず、紙一重で救われていたことでした。まさに、神様はいたということでしょうか。

あらためて思うことは、地球にとって太陽が太古のころから人間のみならずすべての生き物の“元”になっているということです。日本には四季があり、それぞれの地域で太陽の恵みを最大限に利用して作物をつくり、営々と日々を紡いできたことを再認識するこの一年ではなかったでしょうか。

地球規模で起こっているさまざまな環境問題を解決するためには、グローバルな視点とローカルな視点での取り組みが必要です。「たんぼの学校」では、そのローカルな取り組みとして身近な環境である「たんぼ」のある環境を守ることを重要な目的にしています。

「たんぼ」には環境問題を解決するヒントがたくさんあります。「たんぼ」の米づくりをとおしてそのいくつかでも気がついていただければと考えています。みなさん、この一年でいくつくらい気がついていきますか？

宿題

今回の学習には、宿題が1つあります。忘れずに持ってきてください。

ひとつめは、この12ヶ月間にたんぼで学んだことの感想文（長さは自由です。）です。この一年、参加した授業をもう一度、家族で振り返ってみてください。おとうさんも、おかあさんも、こどもたちもみんな書いてください。（書けない子どもは、おとうさん、おかあさんが代筆してください。）卒業式に読み上げていただきます。

卒業式欠席の場合も3月8日までに宿題は提出（FAX、メールなど）してください。

出欠席の確認

卒業式の出欠席を3月8日(木)までに尾辻まで FAX

して下さい。

3月11日（日）（10：00～12：00）の学習

内容「堆肥天地返し」 場所「たんぼ」
作業のしやすい服装(特に長靴、軍手など)

3月11日（日）（12：30～16：00）の学習

4. 會計報告

2011年度収支決算

	科目	コード	金額	備考
収入の部	受講料	1110	177,000	
	事業収入	1120	85,700	柏野夏祭り模擬店収益等
	会費	1210	12,000	
	寄付	1310	20,000	
	預かり金	1320	39,000	米代他
	立替入金	1330	0	
収入の部合計			333,700	
支出の部	消耗品費	2110	30,047	
	通信費	2120	6,590	インターネットサーバ他
	材料費	2130	6,892	種など
	交際費	2140	9,000	
	会議費	2150	27,492	
	講師料	2170	155,500	
	光熱水費	2220	10,000	
	賃貸料	2230	500	ふれあいの家
	預かり金支出	2310	81,400	米代
	参加会費	2340	1,000	
支出の部合計			328,421	
収支差額			5,279	

5. 参加者名簿

5. 参加者名簿一覧

代表者氏名	参加人数	住所	備考
石森 勇	4	調布市佐須町	
今江 知延	1	狛江市東和泉	
内田 君子	5	調布市調布ヶ丘	
大野 良枝	2	調布市菊野台	
田原 晋介	3	調布市国領町	
寺内 知哉	5	調布市佐須町	
富樫 豊	3	調布市布田	
中野 耕二	4	狛江市東野川	スタッフ
西山 光明	5	狛江市西野川	
沼田 貴明	4	調布市多摩川	
林 保	1	調布市調布ヶ丘	
藤井 一輝	3	調布市深大寺東町	
牧島 進	3	調布市国領町	
松原 雅司	1	調布市国領町	
鬼弦 千枝子	1	調布市飛田給	
四方田 清	1	山梨県北斗市	
尾辻 義和	1	調布市佐須町	スタッフ
尾辻 隆子	1	調布市佐須町	スタッフ
合計	48		

6. 参加者感想文集

自然にふれること

沼田祥子

「たんぼの学校」に参加した理由は、私が興味のあることを主人や子供に知って欲しかったから。おかげさまで家族そろって自然に触れて、食べる物がどうやってできるのか肌で感じることができました。

参加を決めた頃に震災があり、自然の驚異とともに放射能の問題がこの1年間、心を覆いました。以前、新聞の全面広告に東京電力の使用済燃料棒のことが、かわいいイラスト付きで掲載されて、「これは未来への宿題です」とありました。その時は未来には新しい技術ができていけるのかな？でもちょっと不安だなと思いましたが、日常生活の慌ただしさでそのまま忘れてしまいました。

しかし原発事故後、「未来への宿題」は現実の問題として迫ってきました。遠い昔の広島、長崎の原爆やアメリカの狂牛病問題、中国の餃子事件の時は正義を振りかざしていた政治家もメディアも完全にパニックになり、私自身だんだん考えるのが面倒になり、チャルノブイリは25年たっても解決していないのに、教訓を生かすことなく、ただただ日本中がなすすべなく、1年が過ぎたように思います。私は「風の谷のナウシカ」の原作を何度も読み返し、作者の宮崎駿さんはずっと以前からこのことを警告していたのだなと私は思いました。「汚れているのは土なんです」ナウシカの言葉が心に刺さります。そして原作では海は汚染されて、人々は海からの恩恵は受けられない設定になっています。農薬や合成洗剤、そして放射能、「沈黙の春」「複合汚染」「夢の島（今の状況を知らず）」いろいろなことで頭がいっぱいです。

大人は良い社会を目指していたはずなのに、地球のバランス＝調和を考えずに、人だけが便利な状況になった結果、土や自然から子供達（私の世代）は離れて育ち、自然界への畏敬の念どころか、虫ひとつ怖がる世代になってしまった。テレビで観る動物やアニメなどは好きでも、本物を異質なものとして育ってしまった。だから汚しても何とも思わない、心が痛まない。匂い、手触り、暖かい、冷たい、歩くことなど感覚の大切さを今からでも取り戻したい。宮崎さんはインタビューで「トトロが子供の原体験になっては困る」と言っているようです。トトロをヒントに主題歌のような、本物の原体験を子供の心にプレゼントしたい。

「歩こう、歩こう、、、ミツバチぶんぶん花畑、、日向にとかげ、、蛇はひるね、蜘蛛の巣くぐって、、歩こう、歩こう」

現実の日常生活では、これだけ知ったかぶりのように書いても、褒められた暮らしをしているわけではない、そんな私が子供達にできることは何か、その一つが「たんぼの学校」

に子供達を連れてくることでした。尾辻さんが「グローバルな視点とローカルな視点」でと書いていらした、「ローカル視点！」働く大人のそばで子供らがカエルと遊び（ヌルヌルして最初触れなかった）、泥に素足で入り温度を感じ、堆肥の匂いを嗅ぎ、5感をフル活動させて、自然と友達になり、調和している自然界を難しい言葉なく感じさせてくれる、かけがえのない体験。

最近よく言われている「持続可能な社会」の心地よさが子供達の心に根付いたら、今、地球の調和を無視してエネルギーを使いすぎてしまった大人とは違う、希望のある新しい形を生み出していけるかもしれない、そんな大人になる土台づくり、大切な物を小さなことでもいいから守っていける気持ちを「たんぼの学校」からもらっていると考えています。

来年もよろしくおねがいします。

～～～たんぼの学校をふり返り～～～

沼田 貴明

子供達は今年9歳と7歳になります。

私たち家族が調布に移り住んでから4月で丸五年となります。調布には夫婦どちらかの実家があるわけでもなく所謂“土地勘”はありませんでした。

日頃私たち家族の故郷は調布だと思っていますが、ただ住んでいるだけでは愛着が希薄になってしまおうとも思っていました。

昨年たんぼの学校の話しを家内から聞いたときに「子供達にとって調布への思い入れがより一層強まる。また小学校や幼稚園とは違う世界を持つことも大切なことだ」と思いました。実際にたんぼの学校に行くと初めて会う子供たちとすぐに子供達だけの世界を作り、大声でたんぼのまわりやカニ山を走り回っていました。私自身がコンクリートで囲まれたところで育ったため良い経験をさせて頂きました。これらの経験が子供達がこれから生きていく上で「根っこ」になってくれると思います。

得難い経験をさせて頂きありがとうございます。来年度も参加をしたいと思っています。また、私自身も「根っこ」を作り直したいと思います。

宜しく申し上げます。

「田んぼの学校」の一年間を終えて

H24.3.11 藤井一輝

この一年間、今までにない貴重な体験、勉強をすることが出来ました。

私自身は四国の香川県の田舎町の出身で、実家は祖母や父が兼業農家を営んでおり、10月頃の稲刈りの時にはコンバインが入れない畔道の脇の稲刈りを手伝っていました。脱穀は実家の庭先で行っていて、10月頃になると籾殻？（もみがら）が体について、すごくかゆかったのを覚えています。

暗く日の当たらない小屋（祖母は肥屋？（こいや）と呼んでいました）に私たちの食べ残しの野菜の切れ端などの残菜を腐らせた土があり、縞ミミズ（しまみみず）がいて、私は魚釣りの餌に使ったりしていました。その土は畑や田んぼの肥料として使っていました。また祖母が亡くなるまでは実家のトイレは汲み取り式で、祖母が私たちの糞尿を汲んで、両天秤の大きな桶に汲んで畑に撒いていました。祖母は毎日の生活から大変な土づくりを日々行っていたんだなあ、ということはこの一年間の学習を通して改めて思いました。

地域の結びつきも実家の自治会では（兼業）農家の人が多く、田んぼの一年間の行事を通してつながっていたと思います。一番大きいのが収穫を祝う秋祭り、私も小学校4年生から、獅子舞をしており、自治会の30件くらいの全戸を獅子舞が回る（家の前、庭や道路脇でもゴザを敷いて、鉦（かね）や太鼓を叩いて、一戸に付き、20分くらい獅子舞を遣うのです。秋祭りの日には代表の遣い手が神社で奉納獅子舞を披露します。

また田んぼの問題は水と大きく関わってくることでもあります。香川県は昔から雨が少なく、ため池がかくさんありました。私の実家ではより高い土地にある鶉野池（うのいけ）というため池から水を引いていて、水利組合も出来ていて、どういう順番で水を田んぼに入れていくか、春先には組合で話し合っていました。

この一年間の経験は家族で、田んぼに関わって、実際に私自身も経験していなかったたこさんのことを学ぶことが出来ました。特に娘が、毎日食べているお米のこと、お米を作るのにたくさんの人が力を合わせて努力していること、収穫の喜び、それに関わったみんなでお祝いすること、お正月の行事にもつながっていること、環境問題や地域の自然をどのようにして次の世代に引き継いでいくか？ということをおの子どもたちと一緒に楽しみながら実体験出来たことをとても嬉しく思っています。

今でも実家からは取れたお米を送ってもらっているのですが、その時に電話でお礼を言う娘の声にも今年からは実感がこもってきたように感じています。一年間ありがとうございました。来年度も引き続きよろしくお願ひ致します。

一年間皆様には、いろいろとお世話になりありがとうございました。

幼稚園のお友達の内田さんより、田んぼの学校の話を知ったのは、丁度昨年卒園して春休みを過ごしている時に、植物園の自由広場で子どもたちが遊んでいる時でした。

その後、家族と相談し田んぼの学校に申し込んだつもりが、FAX を違うところに送ってしまっていて、気づいた時には締切が過ぎてしまっていました。開校式後にまだ空きがあるとのことで、入学することが出来ました。

私は、父親が転勤族でしたので、小学校入学から中学2年生まで長崎の爆心地の近くのまだ自然が残るところで過ごしていましたが、田んぼの生活とは無縁のまま今まで、過ごして参りました。

夫は兼業農家の出身で、こちらから誘った田んぼの学校でしたが、田んぼに参加する毎に、用事で実家の両親に電話する際には、目を輝かして娘の様子を交えながら田んぼで今何をやっているかを楽しそうに話しているのを見るにつけ、家族で参加出来て本当によかったなと思いました。

子どもが大きくなるにつれ親としても一緒に同じことを取り組むことをしたいと思っていたこと、一人っ子の娘にとっては異年齢のお兄さん、お姉さん、弟、妹が出来、昔の農家の取り組みは、家族や地域の老若男女一同介して取り組んでいた、今の状態だったのではないかなと思うようになりました。

土に触れることは、自然に触れ、生き物に触れ、食物の有難味を感じ、人間本来の自給自足である今までの先祖からの営みを肌で感じる機会にもなりました。

かに山での火つけ、火起こしの体験は、火の有難さと、危険さ。娘にとって初めての火つけでなかなか上手く出来なかったけれど、チャレンジすることの大切さ、またたまたま夫がその時居なかったのですが、いつも火起こしは夫の役割で簡単に点けているように思っていました。いざ自分が点けるとなるとマッチ1本で点けることのプレッシャーとなかなか出来なくて、私自身挫折しそうになりましたが、子どものみている前で弱音は吐けず、皆さんに見守られながらなんとか火をつけることが出来ました。

堆肥返しでは、大きなカブト虫の幼虫に驚き、子どもたちが宝物さがしのように楽しんで土を掘りながら幼虫探しをやるのをみるにつけ、子どもはどんなことでも遊びにしてみよう天才だなと改めて感じました。また、そのいろんな機会を与えていただけて感謝しています。

家族と一緒に開われ学び楽しめる機会を頂き、実り多い一年でした。

尾辻ご夫妻はじめ皆様に感謝致します。出来れば来年度も参加できたらと思います。

あそんだり、ベンキョウしてたの
しかったです。とてもしつぱい
かぶとむしを見つけてとっ
てもうれしかったです。びに
るはうすでひるごはんをた
べたり、びにーるはうすであそ
んでたのしかったです。とてもしつ
ぱかかったです。とてもしつぱい
火であたまったりしました。たか
うえて^手るつるすべったりし
た。たいひがえしをしてかぶと虫
からひきいじょうしました。きんぷへい
ったときまっちをやりましたがこわくて
できませんでした。ちやくやしかったです。
いねをうえたときどろんこになってちやく
いやだったけどたのしかったです。2年もやり
たいです。かかしでは、せいかいをつくりました。か
ぜでたをわたのがしょくでした。

なまえ

藤井 悠奈

田んぼの学校の授業に参加して

田原 晋介（父）

はじめは「子どもが泥まみれになって遊べるようになれば、神経質な部分が少しは治るかな？虫なんか触れるようになるかな？少しはたくましくなるかな？」等々…。子どもにとってきっと良い経験になると思い参加を決めました。

しかし、参加してすぐに「これは、神経質で虫嫌いのモヤシっ子そのまま大人になった私の為の教育訓練プログラムだ！」と思いました。

知らない事だらけですべてが新鮮で、本当に楽しい経験をさせていただきました。

相変わらず虫嫌いは克服できません。できるとは思いませんが、次年度も参加させていただきたいと思います。

1年間ありがとうございました。

田原 早希子（母）

1年前、田んぼの学校に申し込もうと思った1番の理由は、子どもに自然と触れ合う機会をつくってあげたいという事でした。申し込むまでは「3歳では早すぎるか、もう1～2年あとの方がよいのか」と迷いましたが、その場にいるだけで、いろいろな事を感じ楽しんでいたので、参加して本当によかったと思います。

作業にはほとんど参加できませんでしたが、それでも「明日は田んぼ？」といつも楽しみにしておりました。

私自身も、自然の中で過ごす時間はとても気持ちがよく、調布にもまだたくさんの自然が残っている事に驚きました。また、田んぼの授業を通して、昔の人は自然を最大限に利用して生活をしていたのだということ、すべての物を無駄なく使っていたのだという事を学びました。今は便利な物がたくさんありますが、自分で考え、廃物利用する等してゴミを減らし、自然を汚さない努力をしていかなければいけないと思います。

1年間ありがとうございました。また来年度もよろしくお願い致します。

1年前・・・

「あの日」は突然やってきました。
今までに経験したことのない長く激しい揺れは、
すぐに大地震を予感させました。
そして、テレビでは刻々津波の映像が・・・
全てが、現実に行っていることなのか夢なのか
自分でも分からなくなるような感覚を覚えました。

そして、「あの」原子力発電所の事故です。
放射能がどれほどの影響を与えるのか、未だ正確な情報が与えられないまま、
1年が過ぎ、もう元の状態には戻らないということだけがはっきりとしてきました。

水も空気も大地も、きれいで安全なのが当たり前でした。
でももう、全てを検査して、本当に安全かどうか確認してからでないと
何もできなくなってしまいました。

そういった1年でしたが、ここ調布の田んぼでは、例年と同じように
地面には「みみず」がいて、水を張れば「おたまじゃくし」や「どじょう」や「え
び」が現れ、
水鳥が羽を休めていました。
この大事な水と空気と大地を、破壊するのも、大切に守っていくのも人間です。
そのことを考え続ける1年でした。

田んぼの学校に参加して（感想）

平成24年3月8日

富樫家（3名）

丸二年体験させていただきましたが、ある程度要領は覚えたものの作業そのものはやはりまだひよっ子です。来年もチャレンジしてみたいと思っています。

今年は収穫祭も参加でき、収穫の楽しさも味わうことができました。

ただ、今年は原発の影響で落ち葉集めができなくなり来年以降のたい肥量に不安が残ってしまったのが残念です。

*田んぼ（お米）とは直接関係ありませんがたき火での焼き芋もおいしかったです。

富樫 豊

2年間大変お世話になりました。東京に来て米作りの体験ができると思っていませんでした。

子供にとっても楽しい体験ができたようです。子供にとっては米作りより虫取りや外遊びのほうが

楽しかったようです。案山子づくり、しめ縄づくりや炭焼きなど田舎にいても今ではなかなか体験

できず初めてでしたがとても楽しかったです。これからも自然にかかわる体験ができたらうれしく

思います。

富樫 ひとみ

お友達と虫をつかまえたり、カレーを食べたことが楽しかったです。

富樫 太志

一年間ありがとうございました

*卒業式参加できずすみません

牧島 亜依

・昔ながらの田植えや稲刈り、脱穀など、昔の人は機械もなく手作業でやっていたことを考えると気の遠い作業だったと思う。

毎日何気なく食べているお米がどこでどんなふうになられているか学び、自然の恩恵を受けながら育っていくことや、一生懸命育ててくれる人がいることがわかり、食べ物のありがたさを感じるようになった。

・稲刈りなど刃物を大人と同様に使い、はりきって刈っていた。

・しめ縄を親子で作って楽しかった。わらによるしめ縄づくりや縄縄えは、無駄を作らない工夫がされているということを知った。

・職場のストレスがかなり高い時期があったが、のどかな田園風景、田んぼの作業をすることでストレス発散になった。

・収穫したお米はおいしいねと家族で言いながら味わった。お米や食べ物のありがたさを感じることができた。

・亜依はいろいろなことに積極的にやろうとする姿勢が見られ、毎回作業の度にうれしく感じた。

・かかし作りはとても楽しみにしていて、かかし作りの日を待たずに顔を作ってしまった。作った人に似るのか亜依にそっくりなものを作った。

・台風上陸のときに亜依はかかしを心配して田んぼを見に行こうといい、家に帰る途中田んぼに寄ったり、台風が去った後に田んぼにかかしを直しに行った。

・登園するため家を出たときに、朝尾辻さんが通ったと叫び興奮していた。

・火をおこすことはなかなか難しかったが楽しい経験だった。マッチをすることもときどき練習している。

・年長児は保育園で稲作をするのでこの経験を生かしてもらえたらと思う。

- ・ 良ちゃんたちと一緒に遊んだこと
- ・ ママと稲刈りしたこと
- ・ しめ縄は楽しかった
- ・ かかしはお化粧をするのが楽しかった
- ・ お米がおいしかった

1番下の子が大きくなり、昨年度よりは来ることが出来ましたが、来てはまだ幼い子供をみていることが多く、娘にも「仕事してない」と言われる位でした。そんな私が、お米作りについて何か言うのはおこがましいので、子供たちが遊んでいるところに多くいた立場から感想を述べたいと思います。

ここに来る子供たちは本当に楽しくいつまでも遊んでいます。メンバーは毎日会う学校の友達ではなく、いろいろな学校から集まった子たち、学年もバラバラ、遊具やゲームなどがある訳ではない、そんな環境で子供たちは自分たちで工夫して協力して、ときにどろんこやびしゅぬれになりながら遊びを作り出しています。

本当はお米作りを体験し、学ぶことがあつたとは思いますが、大人たちが仕事しながら半分見守られる中で自由に遊ぶ、たまにお手伝いしたりする、と遊んでいたというところで子供たちは多くのことを学んでいると思います。

日本の農家の子育て、そんな感じかなと勝手に想像しています。

自然の中で遊ばせ経験をした子は成長してから挫折に強いという調査結果をきいたことがあります。

田んぼの学校の子供たちも今の経験が大人になつたときに大切な思い出となり、生きる糧となることを願います。

西山 貴代美

一年間での田んぼの思い出

田んぼの学校でははけこ
あそびではかりでした。たけい
たまにもちつきとかいねかりと
かないきょうみのあるこくを
かしてみたらあそぶより楽しかった
であかかし作りで目とか口が
書くのや、ふくをきせたりするの
が楽しかったです。かかいに名前
をつけるときに金ピカたから
「金キンちゃん」とつけたのをおぼえて
います。

三年生になったらあそび
はかりではなくてちゃんと
田んぼのじつをやりたいと
思っています。



にいや子 たいさ

かぶとむしのよちり
をのたま

いかにか
あこに
かぶとむし
さきんがは

かたつし
おちつき

たのりかたつし
かたつし



田んぼの魅力

西山 光明

元々、田んぼの学校に来るようになっ
たまっかけは、子どもに田んぼをやらせ
て、泥や生き物に対する抵抗感がなくな
ればなあぐらいのわりと軽い気持ちから
でした。ところが、田んぼに来るようにな
って面白がっていきのほ、むしろ親を
あき自分であり、日曜日の朝とすれば早
起きしてそそくさと玄関を出て家族の先
頭を切り、自転車をとぼしてくるようにな
りました。

何がそんなに私を田んぼにひきつける
のか考えみると、米づくりには自然に
対する知恵や生活の知恵、農業・土木・
生物学等々、様々な知識が活かされてい
て、なおかつそれを体を使って形づく
っていくというのが、デスクワークが嫌い
な私にとって、この上なく面白く、田
んぼに片足がハマってしまっました。そ
れは、米づくりは共同作業だから、一人
や二人で頑張るも全然ほかどらない、
チームプレイで作業が進んでいくという

のがもう一つの面白さだと思えます。子どもも大人も力を合わせて何かを作ると経験というのには、今の社会では貴重なことではないでしょうか。

稲刈りの後の収穫祭やもちつきは毎年の楽しみです。この収穫の喜びを味わえるうちの家族は幸せだし、来年もこの幸せが続くことを願っています。そのためには、この田んぼやその環境をぜひとも子どもたちに残していきたいです。これだけの環境が都内に残っていることは奇跡に近いことでしょうか。私が身近でできること

環境のために

の一つにしたいです。そして、いつかは日本のどこかでマイ田んぼがもてる日を夢みたりしています。

田んぼの学校

うちだ あき

わたしは、田んぼの学校は、たのしいとおもいます。なぜかという草かりや、おこめをとるのがおもしろいからです。なぜ草かりがおもしろいとおもったのは、かまをつかうからです。

だからいいのおもいます。

なぜおこめをとるのがおもしろくなったのは、おこめかだいすきだからです。

田んぼの学校にはいるとおもしろいことか、
いっはいそのなかで一ばんおもしろかった
ことは、おもちつきです。なぜかというとお
もちをつくのもおもしろいしたべりのもおも
しろいからです。ニはんめにおもしろかった
のは、たねをうえるときです。なせ^なたねをう
えるのがおもしろいとおもったのは、たねを
うえるとかばあをかきます。だからかばあを
みるとおもしろくなるからです。

三 ばんにおもしろかったことは、わらじづ

くりです。なせかというとお正月がざりやな
わとびを、つくるのかたのしかったからです
ずーと田んぼのが、こうをつづけたいとお
もいます。

内田 寛介

た	と	ち	ま	た	し	友		時	
と	で	あ	す	り	た	達	一	よ	ほ
喜	す	ふ	。それ	し	り	も	番	り	く
ん	。さ	れ	は	ま	、	よ	梁	も	は
で	え	ろ	と	し	用	ん	し	楽	田
く	っ	ろ	て	た	水	で	か	し	ん
れ	た	田	も	。梁	路	、	っ	か	ほ
ま	友	ん	長	し	を	た	た	っ	の
し	達	ぼ	い	か	た	き	こ	た	学
た	は	で	時	っ	ど	火	こ	こ	校
。も	っ	し	間	た	っ	を	は	と	二
ち	と	たい	の	理	て	し	収	が	年
ろ	っ	ほ	中	由	野	たり	穫	た	目
ん	て	う	、	は	川	、	祭	く	で
こ	も	だ	自	他	の	鬼	下	さ	、
の	梁	い	然	に	方	ご	す	ん	初
こ	っ	た	に	も	ま	っ	。学	あ	め
と	か	こ	満	あ	で	こ	校	り	て
	っ	こ		り	行	も	の	ま	の

以外にも田植えや種かりなど楽しいことは、
いつぱりありました。しかし今年も、東日本
大震災のえいきょうで、かに山でのおち葉が
なかつたのが残念でした。また来年も田んぼ
の学校に参加して楽しい思い出をいつぱい作
りたいと思います。

234

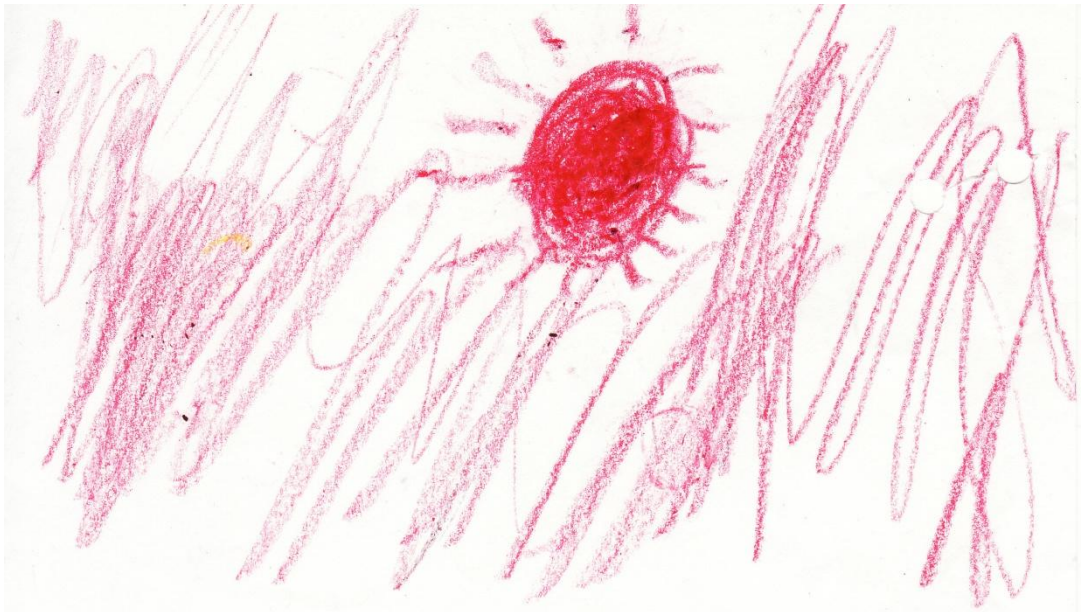
田んぼの学校で楽しかったこと
ぼくは、これで2回目だよ。たいねえ、楽し
いことが多々ありました。1つ目はよう水踏
のそうじです。よく空きかんがおちてました。
自転車もすてられていたけど、ずいぶん遠くへ
野川の方までとりにいきました。あきかんに
は、ザリガニが入っていておもしろかったで
す。この目に楽しかったことは、いっしょかく
さいでさ。自分たちの手作りのおもちはい

いき、

こうでした。3っ日はわらじづくりです。
大な物をつくる事ができました。
来年もやりたいです。

田んぼの学木交にかよって！！
春の田うえは、はじめてでした。秋のいねかりは、いねをかるのがたのしかったです。夏は、すいろで水あそびをしました。すいろの水はつめたかったけど、たのしかったです。冬のしめなわ作りはなわとびみたいだなわが作れてうれしかったです。たのおこめは、おいしかったです。

沼田 友和子より



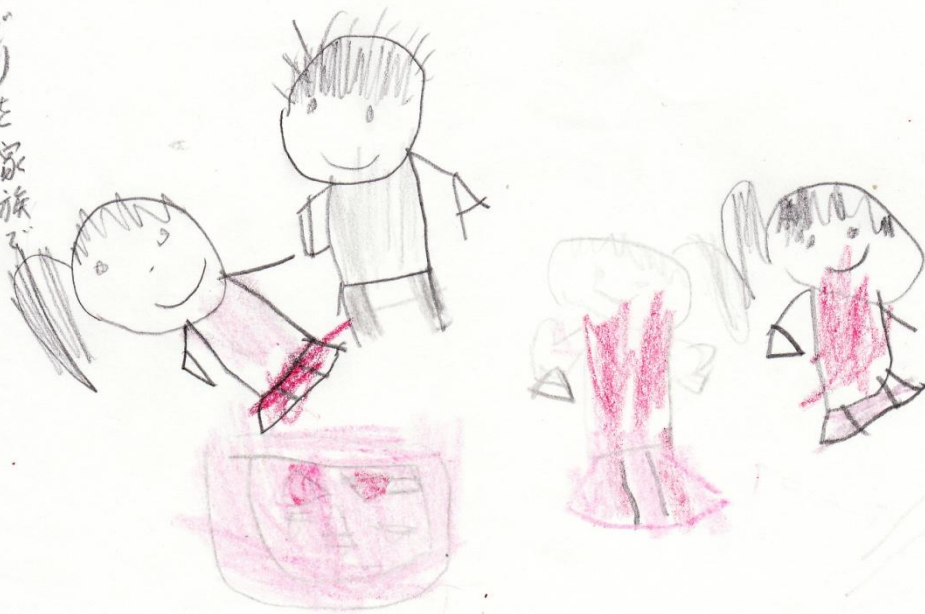
田植をして
いねがえだての
あひら





水がぬけて
 いぬがやたって
 水があつたところだ
 いぬが出てる
 といわれた

おにぎりをおいしい
たべて



下
ま
か
の
い
し

end

たんぼの学校の感想

牧島 進
牧島 路代

1年前、保育園のお友達に誘われ、たんぼの学校に入ることになりました。

この学校へ入った目的は、食べ物のありがたみをもっと分かってほしいということと、保育園以外の異年齢のお友達と仲良くなってほしいということでした。

お米を水につけ芽が出るところから始め稲を収穫するまで、昔ながらの田植えや稲刈り、脱穀などを体験させていただき、昔の人は機械もなく手作業でやっていたことを考えると気の遠い作業だったと思いました。

また、毎日何気なく食べているお米がどこでどんなふうになられているか学び、自然の恩恵を受けながら育っていくことや、一生懸命育ててくれる人がいることがわかり、食べ物のありがたさを再度認識しました。

また、わらによるしめ縄づくりや縄織え学習により、無駄を作らない工夫がされているということも学びました。

娘は泥遊びがあまり好きではなくてたんぼに入ってくれるかどうか少し心配していたのですが、親子でたんぼで泥だらけになって田植えをし、そのほかのことにも毎回積極的にやろうとする姿勢がみられ、作業の度にうれしく思いました。

案山子作りはとても楽しみにしていて一度中止になったときは、ものすごくがっかりしていました。待ち切れず、案山子作りの日を待たずに顔を作ってしまったほどでした。できあがった案山子は、作った人に似るのか娘にそっくりなものができあがりました。

稲刈りでは私以上に大活躍し、しめ縄では飾り付けを親子で行いとても楽しい思い出ができました。

火起こしはなかなか難しかったですが、楽しい体験でした。娘はマッチをする練習したいというので、お線香をあげるときにときどきさせています。

いろいろな体験をさせていただき、娘にとって身近なものとなっているようで、朝登園するため家をでたときに、(たぶん人違いですが)「尾辻さんが今いたよ。」と叫び興奮していたり、台風上陸のときに亜依は案山子を心配して家に帰る途中にたんぼに寄ったり、台風が去った後にたんぼに案山子を直に行ったりしました。

来年度は参加できるかまだわかりませんが、とても貴重な体験をさせていただき感謝しています。

娘は来年度は保育園で稲作をするので、この経験を生かしてもらえたら嬉しいと思います。

1年間、ありがとうございました。

7. 総括報告

「野川で遊ぶまちづくりの会」

代表 尾辻義和

「田んぼの学校」という形で再スタートした、「野川で遊ぶまちづくりの会」の「米つくり」も第11期を終えることになりました。今年度の参加者は15組、総勢40名以上となりました。また、今年度は、3月11日に発生した東日本大震災と、その地震と津波による福島第1原子力発電所の重大事故の発生で、放射能汚染拡大という不安を抱えた中での実施となりました。

田んぼの作業は毎年同じ作業の繰り返しですが、同じようにできる事は減多になく、目が離せません。今年度は、しろかきするためにかかせない耕運機が直前に故障したためにしろかきが延期される事態となってしまいました。近所の方から耕運機を借りて、やっとのことで田植えが出来ました。生育は順調で、玄米にして120Kgほどを収穫しました。

今年度も、参加して頂いた方々には感想を書いて頂きましたが、「田んぼの学校」の趣旨がきちんと伝わっている事にたいへん嬉しく思っています。ほとんどの皆さんが継続して田んぼをやりたいと言っておられ、かといって、新しく応募される方にも加わっていただきたいとも思っているので、耕作面積は何とか増やしたいと今後も行政など関係する方々をお願いする次第です。多くの市民が集まって行うため、以下のような問題も放置できなくなりつつある状況にありますので、行政に少しでもご配慮いただければ幸いです。

- (1) 手洗いやトイレ（現在は、竹内さんの設備を使用させていただいている）
- (2) 休憩場所（竹内さんの敷地や道路を使用している。特に道路は子どもたちが遊んだりするため、通行する車に迷惑を掛けている）
- (3) 道具類の置き場所（現在は、竹内さんの納屋などを使用させていただいている）
- (4) 農器具が老朽化（耕運機、粃摺り機）しているため、壊れるおそれがあるが、代替の機械がない。
- (5) 水田を維持したり、ホタル生育の環境を維持するために、環境用水としての井戸を掘り、水量の維持を図る。

他にもスタッフ不足など問題はありますが、地域の方々の助けを借りたり、ちょうふ環境市民会議のサポートをいただくなど、少しずつ前進していきたいと考えております。皆様のご指導、ご協力をお願いして、総括とさせていただきます。

以上

8. 付録

2011年度田んぼ植物調査報告書

石森

★主に田んぼの中に生育

ハハコグサ (キク科)
キツネアザミ (キク科)
コオニタビラコ (キク科)
ノゲシ (キク科)
トキワハゼ (ゴマノハグサ科)
ムシクサ (ゴマノハグサ科)
ヒメオドリコソウ (シソ科) 帰化植物
セリ (セリ科) 植栽
レンゲ (マメ科) 植栽
ヘビイチゴ (バラ科)
ナズナ (アブラナ科)
スカシタゴボウ (アブラナ科)
セイヨウアブラナ (アブラナ科) 帰化植物
オランダミミナグサ (ナデシコ科) 帰化植物
スズメノテッポウ (イネ科)
スズメノカタピラ (イネ科) (※ツルスズメノカタピラかも)
イヌビエ (イネ科)

★主に畦に生育

カントウヨメナ (キク科)
アカミタンポポ (キク科) 帰化植物
トキワハゼ (ゴマノハグサ科)
ゲンノショウコ (フウロソウ科)
ヘビイチゴ (バラ科)
ミチバタガラシ (アブラナ科)
ナガミヒナゲシ (ケシ科) 帰化植物
ウシハコベ (ナデシコ科)

合計 23 種

今年、田んぼ内に優占的に生育していたのはスズメノテッポウと秋に播種したレンゲ。
昨年、優占していたスズメノカタビラとムシクサは今年は減少していた。
数が少ないが、キツネアザミ、セイヨウアブラナ、コオニタビラコが今年初めて見られた。

田んぼの学校 用水清掃活動時動物確認種報告

石川和宏（東京都世田谷区若林5-40-7）

調査場所：佐須用水（本流及び分流）



：調査範囲

調査日：2010年4月29日（木）

調査方法：目視観察、タモ網及びサーバーネットによる任意採集

天候：晴れ一時にわか雨



確認種一覧

〔環形動物門〕

1. ミズミミズ科の一種 *Naididae* Gen. Sp. (ミズミミズ科)
2. イトミミズ科の一種 *Tubificidae* Gen. Sp. (イトミミズ科)
3. ミミズ目の一種 *Oligochaeta* Fam. Gen. Sp. (科不明)

〔節足動物門〕

4. フタスジモンカゲロウ *Ephemera japonica* (モンカゲロウ科)
5. アカマダラカゲロウ *Ephemerella rufa* (マダラカゲロウ科)
6. コカゲロウ科の一種 *Baetidae* Gen. Sp. (コカゲロウ科)
7. ハグロトンボ *Calopteryx atrata* (カワトンボ科)
8. シオカラトンボ *Orthetrum albistylum speciosum* (トンボ科)
9. シマアメンボ *Metrocoris histrio* (アメンボ科)
10. ヒゲナガカワトビケラ *Stenopsyche marmorata* (ヒゲナガカワトビケラ科)
11. ニンギョウトビケラ *Goera japonica* (ニンギョウトビケラ科)
12. コカクツツトビケラ *Lepidostoma japonica* (カクツツトビケラ科)
13. ホソバトビケラ *Molanna moesta* (ホソバトビケラ科)
14. ニッポンホソカ *Dixa nipponica* (ホソカ科)
15. キリウジガガンボ属の一種 *Tipula* sp. (ガガンボ科)
16. ミズムシ *Asellus hilgendorfi* (ミズムシ科)
17. ヌカエビ *Paratya compressa improvisa* (ヌカエビ科)
18. ミナミヌマエビ *Neocaridina denticulata denticulata* (ヌカエビ科)
19. アメリカザリガニ *Procambarus clarkii* (アメリカザリガニ科)

〔軟体動物門〕

20. カワニナ *Semisulcospira libertina* (カワニナ科)
21. サカマキガイ *Physa acuta* (サカマキガイ科)
22. マシジミ *Corbicula leana* (シジミ科)

〔脊索動物門〕

23. アズマヒキガエル *Bufo japonicus formosus* (ヒキガエル科)

確認種による評価：

今回確認した種の多くは富栄養環境に多く出現する種であった。

但し、採集地点によってはトビケラ類が優占しているところもあり、水中の容存酸素は十分確保されていることが示唆される。

要注意外来生物であるアメリカザリガニをはじめ在来種と競合するサカマキガイ、本来の分布域ではなく持ち込まれたものと考えられるミナミヌマエビ等が確認されており、今後の対応に留意する必要がある。

出現種の生息環境から見ると、砂質の強い砂泥質底に生息するホソバトビケラやフタスジモンカゲロウ等が確認された。甲殻類は総じて水路中に生育している植物の根やコケ類の間隙中に多数が確認された。

アズマヒキガエルの幼生（オタマジャクシ）も確認されたが、水路が両岸ともコンクリートで護岸されているため、上陸できるものは少ないと推察される。



4.フタスジモンカゲロウ (幼虫)



6.コカゲロウ科の一種 (幼虫)



7.ハグロトンボ (幼虫)



10.ヒゲナガカワトビケラ (幼虫)



11.ニンギョウトビケラ (幼虫) (巢)



12.コカクツツトビケラ (幼虫と巢)



13.ホソバトビケラ (幼虫) (左：巢上面，右：巢下面と虫体)



14.ニッポンホソカ (幼虫)



15.キリウジガガンボ属の一種



16. 水ズムシ



18. ミナミヌマエビ



19. アメリカザリガニ



20.カワニナ



21.サカマキガイ



22.マシジミ

発 行

2012年3月31日

野川で遊ぶまちづくりの会

代表 尾辻 義和

〒182-0016

調布市佐須町2-22-2

電話 042-487-4385

Mail otsuji@y.email.ne.jp

URL <http://nogawa-tanbo.sakura.ne.jp/>